

教育に関する事務の管理及び執行の状況の
点検及び評価の結果報告書
—平成28年度実績—



平成29年9月
栗原市教育委員会

目 次

1 点検・評価制度の概要	1
(1) 趣旨	
(2) 学識経験者の知見の活用	
(3) 点検及び評価の対象	
「栗原市教育基本方針」	
2 点検・評価の結果	
【学府くりはらの学校教育】	
創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援	7
学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成	12
自らの命を守るための防災教育と安全・安心な学校教育の推進	18
いじめを許さない学校づくりの推進	20
一人一人を大切にし、豊かな心を育むための道徳教育及び生徒指導、 特別支援教育の推進	22
健やかな身体を培う体育・健康教育の充実	24
【学府くりはらの社会教育】	
生涯にわたる学習機会の提供	25
生涯学習活動の支援・社会教育事業や施設の充実	31
国際理解のための学習や事業の推進	33
文化芸術活動の支援・地域に根ざした文化芸術の推進	34
文化財の保存・継承活動の推進	35
スポーツ活動の支援・社会体育事業や施設の充実	38
3 学識経験者の意見	41
4 栗原市教育委員会の今後の方向性	43

1 点検・評価制度の概要

(1) 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）第26条の規定に基づき、教育委員会の権限に属する事務の執行状況の点検・評価を行うことで、教育行政の課題や取り組みの方向性を明らかにします。

また、本報告書を議会に提出するとともに公表することにより、市民への説明責任を果たし、信頼される教育行政の推進を図ります。

<参考>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

(2) 学識経験者の知見の活用

地教行法第26条第2項において、点検・評価について教育に関する有識者の知見を活用することが規定されています。

学識者の選定にあたっては、専門的かつ広い観点からの知見を有している方を選定することとし、教育委員会が自己評価を行ったことに対して客観的なご意見をいただくために、現在、教育分野に携わっている方を2名選定しました。

- 吉田 剛 氏 【専門領域】 カリキュラム研究 学校教育学
【研究テーマ】 問題解決/価値判断/意思決定などの授業理論
と経営論 カリキュラム開発・経営論
シティズンシップ教育論 教育経営論
【現在】 宮城教育大学教授（社会科教育講座）
- 小塩 さとみ 氏 【専門領域】 音楽学
【研究テーマ】 アジアの音楽研究（日本の三味線音楽、
ベトナムの伝統音楽）
【現在】 宮城教育大学教授（音楽教育講座）

(3) 点検及び評価の対象

平成28年度「栗原市教育基本方針」に基づく具体的施策に対し、教育委員会で実施した事務事業について、点検及び評価を行いました。

平成28年度 栗原市教育基本方針

栗原市教育委員会は、「豊かな感性と生きる力を育むまち」の創造をめざし、次代を担う子どもたちの創造性、自主性、社会性を育み、すべての市民が心身ともに健康で、生涯にわたって学び続ける「学府くりはら」形成のため、次のことを基本方針に掲げ、各種教育施策を総合的に推進する。

- 一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり
- 共に助け合い潤いに満ちた地域社会の創造
- 地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術活動の推進
- 楽しさと活力ある生涯スポーツの推進

教育の目標及び具体的施策

「学府くりはら」の学校教育

学校教育の目標

- 創意と活力に満ちた特色ある学校の創造
- 子どもたちの確かな学力の育成
- 安全・安心な学校教育の推進
- 子どもたちの豊かな心の醸成
- 子どもたちの心身の健康と体力の向上

めざす『栗原っ子』像

- ・好奇心に満ち 自ら進んで学習する子ども
- ・感性豊かで 思いやりとやさしさのある子ども
- ・心身ともに健康で たくましく活動する子ども

「学府くりはら」の社会教育

社会教育の目標

- 「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
- 地域に根ざした文化芸術の推進
- 文化財の保存と活用の推進
- 心身の健康保持増進とスポーツの推進

学校教育の具体的施策

【創意と活力に満ちた特色ある学校の創造】

創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援	① 児童生徒一人一人に応じたきめ細かな学習指導を推進するため、35人を標準とする学級編制と少人数指導の実施 ② 個性を伸ばし児童生徒一人一人に対応した教育を充実するための学校教諭や補助員の配置 ③ 市立学校再編計画（後期計画）に基づく、学校再編の推進と教育環境整備の推進 ④ 幼児の心身の健全な発達を図るための事業の推進 ⑤ 幼児教育の振興を図るための、保護者の経済的負担の軽減 ⑥ 経済的理由により就学困難な児童生徒に対する学用品等の援助と就学機会の確保 ⑦ 特別支援教育の普及奨励を図るための、特別支援学級に通級している保護者の経済的負担の軽減 ⑧ 通学における利便と安全確保を図るための、遠距離通学の幼児児童生徒への通学支援 ⑨ 保護者・地域への教育方針、教育目標等の明確な説明と学校評価の実施及び結果に基づく協力体制の構築と協働教育の推進 ⑩ 栗駒山麓ジオパークをはじめとする豊かな自然環境を生かしたふるさと教育や農業体験学習の推進
-----------------------	---

【子どもたちの確かな学力の育成】

学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成	① 教育研究センターを活用した幼児教育・学校教育に関する研究や教職員の交流・研修、教育相談等の推進 ② 幼稚園、小学校、中学校の教職員を対象とした学力向上に関する講演会の実施 ③ 学力向上に向けた学習指導法の工夫や改善を推進する学校への支援 ④ 全国及び県学力・学習状況調査や市独自の標準学力テスト、Q-U調査の実施と分析による課題の把握に基づいた、継続的な検証改善サイクルの確立などをはじめとする教員の指導力の向上 ⑤ ICTを活用した授業による学力向上を図るためのタブレットパソコンの配備と活用 ⑥ 国際理解を深め、英語教育を充実するためのALTの配置と、英語に慣れ親しむための事業や教員対象の研修会の実施 ⑦ 自ら学ぶ意欲や問題解決能力の向上、自主的学習の習慣化を図るための学習会の実施 ⑧ 家庭における学習習慣の確立のための保護者や生徒を対象とした講演会の実施 ⑨ 中学校と市内高等学校の連携による学習会の実施
--------------------------------------	---

【安全・安心な学校教育の推進】

自らの命を守るための防災教育と安全・安心な学校教育の推進	① 発達段階に応じた自らの命を守るための危険予知能力の育成 ② 貴重な地域資源である栗駒山麓ジオパークを活用した防災教育等の推進 ③ 防犯を含む生活安全教育や交通安全教育の推進 ④ 児童生徒の安全確保を図る校内危機管理体制の確立と関係機関との連携強化
------------------------------	--

【子どもたちの豊かな心の醸成】

いじめを許さない学校づくりの推進	① 「栗原市いじめ防止基本方針」や各校園の「学校（園）いじめ防止基本方針」に基づくいじめ問題についての教職員間の共通理解及び教育相談等の学校全体での組織的な取組みの推進
------------------	--

	② いじめや不登校などの問題行動の未然防止や早期発見・早期対応等による迅速な問題解決に向けた警察や関係機関との円滑な連携と情報共有の推進 ③ いじめの未然防止及び早期発見のための対策や調査研究及び検証と、重大事態の調査の実施 ④ 重大事態発生時における対応マニュアルの作成・活用 ⑤ インターネット等の情報やSNSについての正しい活用の仕方を身に付けさせる情報モラル教育の推進
一人一人を大切に、豊かな心を育むための道徳教育及び生徒指導、特別支援教育の推進	① 自分の夢や目標の実現のためによりよい生き方を主体的に探究する志教育の充実と推進 ② 幼稚園・保育所から小学校への円滑な接続を図るためのカリキュラムの作成及び連携事業の実施 ③ 豊かな心と主体的・自律的な態度を育成するための教育相談事業の実施 ④ 不登校に悩む児童生徒の学校復帰をめざした、基礎学力を身に付けるための支援 ⑤ 児童生徒の理解を深め、自立と社会参加をめざす特別支援教育の推進と関係機関との連携 ⑥ インクルーシブ教育システム構築に向けた、関係機関との連携の推進や特別支援コーディネーターのスキルアップと校内支援体制の構築を図るための研修会の実施 ⑦ 児童生徒の教育的ニーズを把握し、生活や学習の困難を改善するための「個別の教育支援計画」の作成・活用

【子どもたちの心身の健康と体力の向上】

健やかな身体を培う体育・健康教育の充実	① 体力の向上と生涯スポーツの基礎を培う体育指導の推進 ② 望ましい食習慣やバランスの取れた食生活確立のための食育の推進 ③ 学校保健活動の活性化と学校医等との連携による健康指導の推進 ④ 幼児児童生徒及び教職員の健康の促進のための健診事業
---------------------	---

社会教育の具体的施策

【「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興】

生涯にわたる学習機会の提供	【家庭教育の支援】 ① 幼児及び保護者を対象とした学習機会の提供 ② 地域ぐるみによる家庭教育支援の充実 ③ 関係機関と連携した子育て支援の推進
	【青少年期の活動支援】 ① 地域少年団体の育成と活動の支援 ② 少年教育推進体制の整備 ③ 学習、交流活動の機会と場の提供 ④ 協働教育事業の推進 ⑤ 放課後児童健全育成の推進 ⑥ 青年団体及びサークルの育成、支援 ⑦ 青年教育推進体制の整備
	【成年期の活動支援】 ① 学習、交流活動の機会と場の提供 ② 成人教育体制の整備 ③ 指導者の育成と活動の場の提供 ④ 生涯学習団体等の育成、支援 ⑤ 高齢者の健康・生きがいづくり事業の提供

生涯学習活動の支援・社会教育事業や施設の充実	① 各種教育機関と連携した各種講座・教室・活動の開催 ② 学習情報の提供 ③ 地域の人材活用を図るための指導者の発掘と育成 ④ 市民の学習ニーズの把握 ⑤ 社会教育施設の充実と学習環境の整備 ⑥ コミュニティ事業と連携した生涯学習の推進
国際理解のための学習や事業の推進	① 海外派遣事業の充実 ② 外国人との交流事業の推進 ③ 学校、地域と連携した交流活動の推進 ④ 国際交流関係団体との連携強化

【地域に根ざした文化芸術の推進】

文化芸術活動の支援・地域に根ざした文化芸術の推進	① 文化芸術を生かした活動の推進と自主活動への支援 ② 文化芸術事業の開催及び鑑賞する機会の提供 ③ 文化芸術体験機会の拡充 ④ 文化施設の設備充実と環境整備
--------------------------	--

【文化財の保存と活用の推進】

文化財の保存・継承活動の推進	① 地域の文化財の調査、保存活用と公開 ② 史跡等の環境整備の推進 ③ 文化財への理解と保護に対する関心を高めるための広報活動の充実 ④ 伝統文化の継承と後継者育成の支援
----------------	--

【心身の健康保持増進とスポーツの推進】

スポーツ活動の支援・社会体育事業や施設の充実	① スポーツを行う場の提供と、市民の健康づくりや体力づくりへの支援 ② スポーツ指導者の育成とスポーツ人口の拡大 ③ 社会体育施設の設備充実と環境整備 ④ 総合型地域スポーツクラブの組織づくりへの支援と指導者の育成 ⑤ 学校との連携強化
------------------------	--

点検及び評価項目一覧（平成28年度実績）

基本方針	基本目標	具体的施策	具体的事業	自己評価
一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	創意と活力に満ちた特色ある学校の創造	創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援	1 「少人数指導事業」	A
			2 「学校活性化プラン事業」	B
			3 「栗原市立学校再編計画に基づく学校再編」	B
			4 「幼保一体化施設整備事業」	A
			5 「幼稚園預かり保育事業」	A
	子どもたちの確かな学力の育成	学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成	6 「教育研究センター事業」	B
			7 「Q－U（学級生活満足度尺度）調査」	A
			8 「学力向上支援事業」	B
			9 「学府くりはら塾」「学び支援コーディネーター等配置事業」	B
			10 「学校ICT環境推進事業」	B
			11 「国際田園都市づくり英語教育導入事業」「語学指導外国青年招致事業」	B
	安全・安心な学校教育の推進	自らの命を守るための防災教育と安全・安心な学校教育の推進	12 「防災主任研修会」	A
			13 「地域と連携した避難訓練の推進」	C
	子どもたちの豊かな心の醸成	いじめを許さない学校づくりの推進	14 「栗原市いじめ防止基本方針に基づく対応」	B
			15 「スクールソーシャルワーカー活用事業」	B
		一人一人を大切にし、豊かな心を育むための道徳教育及び生徒指導、特別支援教育の推進	16 「志教育支援事業」	B
			17 「教育相談員の配置」「適応指導教室事業」	B
	子どもたちの心身の健康と体力の向上	健やかな身体を培う体育・健康教育の充実	18 「全国体力・運動能力調査の結果分析」	B
共に助け合い潤いに満ちた地域社会の創造	「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興	生涯にわたる学習機会の提供	19 「家庭教育学級」	B
			20 「ブックスタート事業」	A
			21 「ジュニア・リーダー育成事業・派遣事業」	A
			22 「少年体験教室」「青少年育成団体との連携・育成者の支援」	B
			23 「放課後児童クラブ」	A
			24 「シニアセミナー」「レディースカレッジ」「市民セミナー」	B
		生涯学習活動の支援・社会教育事業や施設の充実	25 「図書館まつり」	A
			26 「協働教育推進事業」	A
		国際理解のための学習や事業の推進	27 「青空大使派遣事業」	A
地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術活動の推進	地域に根ざした文化芸術の振興	文化芸術活動の支援・地域に根ざした文化芸術の推進	28 「見てけらいん美術展ほか各種展覧会」「音楽アウトリーチほか各種芸術鑑賞会」	A
	文化財の保存と活用の推進	文化財の保存・継承活動の推進	29 「埋蔵文化財発掘調査事業」	B
			30 「史跡伊治城跡整備事業」	B
			31 「歴史・文化の継承支援及び伝統芸能活動支援事業」	B
楽しさと活力ある生涯スポーツの推進	心身の健康保持増進とスポーツの推進	スポーツ活動の支援・社会体育事業や施設の充実	32 「栗原ハーフマラソン大会」	B
			33 「栗原市小学校陸上競技大会ほか各種大会」	A
			34 「宮城ヘルシー2016ふるさとスポーツ祭栗原地区大会」	B

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	創意と活力に満ちた特色ある学校の創造	
	具体的施策	創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援			担当課 学校教育課
1 目的					
次代を担う人材の育成と豊かな人間形成をめざし、心身ともに健康で「知性と創造性に富み、心豊かでたくましい人間の育成」に努めるため、多様な方策による学校経営への支援を行い、創意と活力に満ちた特色ある学校を創造する。					
2 具体的事業					
施策を構成する事業			目標指標		
1「少人数指導事業」			中学校の少人数指導教諭（講師）の充足率		
事業概要及び目標			現状値（平成27年度） 3/4人		
中学校において、国の定数法の基準による学級編制とは別に、市独自に少人数指導教諭（講師）を配置することで、国語、数学、英語を中心に、少人数の学習集団を形成し、きめ細かな指導を充実させ、学力の向上を図る。			目標値（平成28年度） 6/6人		
			実績値（平成28年度） 6/6人		
			達成率 100%		
3 平成28年度の取り組みと自己評価					
取り組みと成果					
教科の少人数指導を実施するため、少人数指導教諭を採用した。配置された学校の教員からは、生徒一人一人の学習状況の把握が確実に、学習の定着が不十分な生徒に、適切に指導ができたなどの声が聞かれた。また、グループ学習ではそれぞれのグループの実態に応じた指導が容易になり、生徒個々の考えや疑問に対応した授業づくりができた。					
加えて、今年度については、昨年度の反省を踏まえ2次募集を行い人員の確保に努め目標の6人を採用した。					
今後も、各学校の求める人材の確保を進めるとともに、数学を担当できる教諭の確保に努め、学力向上を図りたいと考えている。					
平成28年度 採用状況					
学校名		教科	採用者数		
若柳中学校		国語	1人		
高清水中学校		社会	1人		
栗原西中学校		英語	1人		
金成中学校		英語	1人		
瀬峰中学校		英語	1人		
志波姫中学校		社会	1人		
計			6人		
評価					
A	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）				
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）				
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）				
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）				
4 平成29年度に向けた課題・今後の方針					
各学校の求める人材及び人数の確保並びに、数学教諭の確保のための広報等の実施			➡	募集時期の見直しと少人数指導教諭（講師）に関する情報の周知、PRの強化に努める。	
5 学識経験者の意見					
前年度の反省をふまえて予定人数の確保に工夫を行った結果、配置する学校数が増え、多方面の教科の教員の確保ができています。少人数指導の効果が教育現場で実感されているので、継続して実施し、さらなる充実が図られることを期待したい。					

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	創意と活力に満ちた特色ある学校の創造	
	具体的施策	創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援			担当課 学校教育課
1 目的					
次代を担う人材の育成と豊かな人間形成をめざし、心身ともに健康で「知性と創造性に富み、心豊かでたくましい人間の育成」に努めるため、多様な方策による学校経営への支援を行い、創意と活力に満ちた特色ある学校を創造する。					
2 具体的事業					
施策を構成する事業			目標指標		
2「学校活性化プラン事業」					
事業概要及び目標					
通常学級や特別支援学級に在籍する特別な支援を要する児童生徒に補助員を配置し、児童の学校生活を支援すると共に、個々のケースに応じた、よりきめ細かな学習指導や生活指導を行う。					
3 平成28年度の取り組みと自己評価					
取り組みと成果					
通常学級や特別支援学級に在籍する特別な支援を要する児童生徒について、学校と連携を密にしながら、補助員を配置した。また、年度途中においても、学校からの要望に基づき、実態調査等を行い、補助員を配置した。 その結果、児童生徒の学校生活における安全の確保と生活指導に効果があった。また、当該児童生徒だけでなく、クラス全体が落ち着いた環境で学習ができるようになったが、任用期間等で100%の充足ではなかった。					
○ 小学校 32人 築館小学校3人 宮野小学校3人 若柳小学校3人 栗駒小学校5人 栗駒南小学校2人 高清水小学校2人 一迫小学校3人 瀬峰小学校1人 鶯沢小学校1人 金成小学校3人 志波姫小学校3人 花山小学校3人					
○ 中学校 8人 築館中学校2人 若柳中学校1人 栗駒中学校2人 清水中学校2人 志波姫中学校1人					
評価					
B		A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上） B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満） C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満） D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）			
4 平成29年度に向けた課題・今後の方針					
各学校において、支援を要する児童・生徒の人数や様態は毎年度異なることから、必要な支援に要する補助員の人数や支援の在り方などケースに応じた支援方法の検討が必要である。			➡	各学校のニーズに合った支援が出来るようにし、補助員の研修等を行っていく。	
5 学識経験者の意見					
特別な支援を必要とする児童生徒への適切な対応は、その児童だけでなく、クラス、学校への支援でもある。100%の充足でなかった点は課題ではあるが、手厚い支援を目指して努力している点は評価できる。各校の実態を把握してよりよい支援を今後も目指して行ってほしい。					

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	創意と活力に満ちた特色ある学校の創造	
	具体的施策	創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援			担当課 教育総務課
1 目的					
学校教育において、児童生徒一人一人が主体的な学習活動を通して、確かな学力を身につけ、集団による教育的機能を発揮しながら、互いに学び合い、尊重し合うことで、幅広い資質を培う。					
2 具体的事業					
施策を構成する事業			目標指標		
3「栗原市立学校再編計画に基づく学校再編」					
事業概要及び目標					
栗原市学校再編計画（後期計画H26-H31）において、教科等の基礎・基本の定着を図り、一定の集団によって応用力を身につけ、集団活動を通して児童生徒の社会性を涵養するという観点から、小学校では各学年2学級以上、中学校においては学校全体で9学級以上とする学校再編を推進し、適正規模の確保に努める。					
3 平成28年度の取り組みと自己評価					
取り組みと成果					
栗原市立学校再編計画に基づく築館地区の小学校再編については、平成27年度に設置した「築館地区小学校再編準備委員会」において、校名、校章、校歌及び運動着等の方針を決定した。また、学校経営、教育課程、PTA活動及び学校・教科備品の各専門部会を設け、学校運営に係る協議により、築館・玉沢小学校の再編を行い、平成29年4月1日に（新）築館小学校として開校した。 高清水・瀬峰中学校の再編については、7月21日に両中学校PTAから計画に対する合意文書が提出されたことから、地域合意に向けた地域説明会の開催を11月14日・15日に実施した。また、その中で小学校PTAへの説明が必要ではないかとの意見があり、高清水・瀬峰の小学校PTAとの意見交換を開催した。					
【小学校】					
学校名		再編準備委員会の状況			
築館小学校 玉沢小学校		4/26 第2回築館地区小学校再編準備委員会（校名） 5/30 第3回築館地区小学校再編準備委員会（校章・校歌・運動着等） 12/7 第4回築館地区小学校再編準備委員会（校章・運動着・最終答申（案）等） 1/16 第5回築館地区小学校再編準備委員会（校章・運動着・最終答申（案）等） 2/13 第6回築館地区小学校再編準備委員会（通学支援・最終答申（案）等）			
【中学校】					
学校名		説明会・意見交換会等の状況			
高清水中学校		7/21 PTAより再編合意書提出、 11/14 地域説明会 11/21、1/25 高清水小PTA役員との意見交換 12/19、3/2 高清水小PTAとの意見交換			
瀬峰中学校		7/21 PTAより再編合意書提出 11/15 地域説明会 12/4 瀬峰小PTAとの意見交換			
評価					
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）				
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）				
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）				
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）				
4 平成29年度に向けた課題・今後の方針					
(1) 築館小学校と宮野小学校の再編について宮野小学校PTAから合意を得られていない。 (2) 高清水中学校と瀬峰中学校の再編は、両中学校のPTAから合意を得ている。現在、将来入学することとなる小学校PTAの意見集約を行っている。			➡	(1) 築館小学校と宮野小学校の再編は、両校PTAの意向確認が必要となるため、定期的に意見交換を行っていく。 (2) 高清水中学校と瀬峰中学校の再編は、両中学校のPTAから合意を得ていることから、今後は入学することとなる小学校PTAの意向確認と地域説明会を開催し、最終的な合意形成を図る。	
5 学識経験者の意見					
築館小学校と玉沢小学校の再編開校、高清水中学校と瀬峰中学校のPTAからの合意文書提出など、少しずつ着実に再編が進められている。今後も地域の理解を得られるよう丁寧な説明が必要であろう。また再編開校した小学校において再編による良い面が示せるようきめ細かい対応が今後求められると思われる。					

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	創意と活力に満ちた特色ある学校の創造																																													
	具体的施策	創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援			担当課 教育総務課																																												
1 目的																																																	
市内の各地区によって幼稚園の保育年数に格差があり、幼稚園の受益サービスに違いがあることから、市立幼稚園の保育年数を3年に統一し、充実した幼児教育を行い小学校で学ぶ土台づくりに取り組む。																																																	
2 具体的事業																																																	
施策を構成する事業			目標指標																																														
4「幼保一体化施設整備事業」			幼保一体化施設整備の着手																																														
事業概要及び目標			現状値（平成27年度）5園/5園 栗駒・高清水・鶯沢・金成・志波姫 目標値（平成28年度）1園/1園 瀬峰 実績値（平成28年度）1園/1園 瀬峰																																														
平成28年4月から全ての市立幼稚園で3年保育を実施するとともに、0～2歳児を保育所、3～5歳児を幼稚園とする栗原市独自の幼児教育・保育の実施に向け、幼稚園児の増加が見込まれることから施設等の環境整備を行う。																																																	
3 平成28年度の取り組みと自己評価																																																	
取り組みと成果																																																	
瀬峰地区幼保一体化施設の建設に伴い、予定地の遺跡発掘調査を実施し、平成28年12月から建築工事に着手している。																																																	
<table><tr><th>地区</th><th>保育年数</th><th>3年保育実施に向けた施設整備状況</th><th>備考</th></tr><tr><td>築館地区</td><td>3年</td><td>築館地区再編による改築工事</td><td>平成27年4月開園</td></tr><tr><td>若柳地区</td><td>3年</td><td>園児増に伴う改修工事</td><td>平成28年4月から使用開始</td></tr><tr><td>栗駒地区</td><td>3年</td><td>幼保一体化施設</td><td>平成28年4月開園</td></tr><tr><td>高清水地区</td><td>3年</td><td>幼保一体化施設</td><td></td></tr><tr><td>一迫地区</td><td>3年</td><td>園児増に伴う増築工事</td><td></td></tr><tr><td>瀬峰地区</td><td>3年</td><td>幼保一体化施設整備に伴う工事着手</td><td>平成30年4月開園予定</td></tr><tr><td>鶯沢地区</td><td>3年</td><td>幼保一体化施設</td><td></td></tr><tr><td>金成地区</td><td>3年</td><td>幼保一体化施設</td><td></td></tr><tr><td>志波姫地区</td><td>3年</td><td>幼保一体化施設</td><td>平成28年4月開園</td></tr><tr><td>花山地区</td><td>3年</td><td></td><td></td></tr></table>						地区	保育年数	3年保育実施に向けた施設整備状況	備考	築館地区	3年	築館地区再編による改築工事	平成27年4月開園	若柳地区	3年	園児増に伴う改修工事	平成28年4月から使用開始	栗駒地区	3年	幼保一体化施設	平成28年4月開園	高清水地区	3年	幼保一体化施設		一迫地区	3年	園児増に伴う増築工事		瀬峰地区	3年	幼保一体化施設整備に伴う工事着手	平成30年4月開園予定	鶯沢地区	3年	幼保一体化施設		金成地区	3年	幼保一体化施設		志波姫地区	3年	幼保一体化施設	平成28年4月開園	花山地区	3年		
地区	保育年数	3年保育実施に向けた施設整備状況	備考																																														
築館地区	3年	築館地区再編による改築工事	平成27年4月開園																																														
若柳地区	3年	園児増に伴う改修工事	平成28年4月から使用開始																																														
栗駒地区	3年	幼保一体化施設	平成28年4月開園																																														
高清水地区	3年	幼保一体化施設																																															
一迫地区	3年	園児増に伴う増築工事																																															
瀬峰地区	3年	幼保一体化施設整備に伴う工事着手	平成30年4月開園予定																																														
鶯沢地区	3年	幼保一体化施設																																															
金成地区	3年	幼保一体化施設																																															
志波姫地区	3年	幼保一体化施設	平成28年4月開園																																														
花山地区	3年																																																
評価																																																	
A		A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上） B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満） C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満） D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）																																															
4 平成29年度に向けた課題・今後の方針																																																	
瀬峰地区幼保一体化施設の建設について、平成29年度内の施設整備工事を完成させ、平成30年4月の開園を目指す。			➡	引き続き施設整備工事の工程を管理し、完成に努める。																																													
5 学識経験者の意見																																																	
瀬峰地区の建築工事が着手され、事業が着実に進められている。施設完成後の保育内容が充実したものになるよう、引き続き力を注いでもらいたい。																																																	

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	創意と活力に満ちた特色ある学校の創造				
	具体的施策	創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援			担当課 学校教育課			
1 目的								
幼稚園教育とともに保育に欠ける園児を充実した環境のもと幼児教育を行い、小学校で学ぶ土台づくりに取り組む。								
2 具体的事業								
施策を構成する事業			目標指標					
5「幼稚園預かり保育事業」			預かり保育の実施率					
事業概要及び目標			現状値（平成27年度）100% 目標値（平成28年度）100% 実績値（平成28年度）100% 達成率100%					
幼稚園の教育時間終了後及び長期休業時において、保育に欠ける園児を対象に栗原市立幼稚園で預かり保育を実施する。また、保護者の急病等で一時的に保育に欠ける園児を対象に、一時預かり保育を行う。								
3 平成28年度の取り組みと自己評価								
取り組みと成果								
幼稚園預かり保育については、年々利用者が増加し、また、利用者ニーズも多様化してきていることから、預かり保育のニーズに対応するための体制の整備を図った。 平成28年度から全ての幼稚園で3年保育を実施し、3歳児以上は幼稚園で受け入れているため、土曜日や長期休業中における預かり保育の実施及び保育時間の延長など、事業の拡大を図った。 また、平成27年度から実施している同時就園の第2子以降における預かり保育料の無料化に加え、平成28年度から市民税非課税及び低所得の母子父子等世帯・多子世帯における預かり保育料の軽減を実施し、保護者の経済的負担の更なる軽減を図った。								
平成29年3月31日現在								
No	預かり保育実施幼稚園	園児数	預かり保育利用者数				軽減を受けた園児数	
			3歳児	4歳児	5歳児	合計	同時就園	市民税非課税等
1	築館	268人	70人	67人	62人	199人	18人	40人
2	栗駒	152人	40人	37人	44人	121人	12人	28人
3	高清水	88人	23人	18人	24人	65人	4人	11人
4	一迫	133人	41人	37人	28人	106人	11人	26人
5	瀬峰	64人	11人	10人	14人	35人	2人	9人
6	鶯沢	49人	10人	19人	12人	41人	3人	4人
7	金成	134人	28人	27人	30人	85人	7人	24人
8	志波姫	156人	35人	29人	49人	113人	18人	23人
9	花山	6人	0人	1人	0人	1人	0人	0人
合計		1,050人	258人	245人	263人	766人	75人	165人
評価								
A	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）							
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）							
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）							
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）							
4 平成29年度に向けた課題・今後の方針								
土曜日保育や延長保育を継続し、預かり保育の充実に努める。			➡			預かり保育の園児の増加と、多様化する保育ニーズ等を把握し、今後の取組について検討する。		
5 学識経験者の意見								
利用者のニーズに添った形で、事業が進められている。第2子以降の保育料の無料化、低所得世帯や多子世帯の保育料の軽減は、子育て中の世帯にとって大きな助けとなると思われる。ニーズの増加やニーズの多様化への対策を行うことで、今後よりよい事業へと展開して欲しい。								

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの確かな学力の育成																																																																																																												
	具体的施策	学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成		担当課	学校教育課																																																																																																											
1 目的																																																																																																																
幼児児童生徒一人一人の「生きる力」の要素である「確かな学力」「豊かな心」「健やかな身体」を育む教育及び個性を生かす教育を推進するため、教職員の資質・能力と指導力の向上を図る。																																																																																																																
2 具体的事業																																																																																																																
施策を構成する事業			目標指標																																																																																																													
6「教育研究センター事業」																																																																																																																
事業概要及び目標																																																																																																																
市立幼稚園、小・中学校の教職員の交流、研修、学力調査等の分析、教育情報の収集・提供、児童生徒への学習支援、児童生徒及び保護者、教員の教育相談の拠点として、次代を担う人づくり＝「学府くりはら」の着実な実現を図る。加えて、ICTを活用した授業を進めるため、担当特任教授を配置する。																																																																																																																
3 平成28年度の取り組みと自己評価																																																																																																																
取り組みと成果																																																																																																																
昨年度の課題を踏まえ、ICT担当の特任教授を配置して活用研修を3回実施し、学習場面に応じた活用方法の研修を進めた。																																																																																																																
また、学力向上に向けた取組として、算数・数学研修会を4回、外国語活動・英語研修会を2回、言語活動充実研修会を1回、Q-U活用についてはセンター研修2回のほかに、出前研修を小中各1校において実施した。加えて、指導力向上に向けた取組として、幼稚園・小中学校の職務別研修を18回開催し指導力の向上に努めた。																																																																																																																
<table><tr><th colspan="2">研修名</th><th>講師</th><th>開催日</th><th>対象</th><th>参加人数（延べ人数）</th></tr><tr><td rowspan="4">学力向上に向けた授業づくり研修会</td><td>算数・数学研修会①～④</td><td>大仙市教委指導主事ほか</td><td>6月、8月、11月、12月</td><td>小中</td><td>102人</td></tr><tr><td>外国語活動・英語研修会①・②</td><td>県学力向上成果普及教員ほか</td><td>6月、8月</td><td>小中</td><td>25人</td></tr><tr><td>ICT活用研修会①～③</td><td>県総合教育センター指導主事</td><td>7月、8月、11月</td><td>小中</td><td>75人</td></tr><tr><td>言語活動充実研修会</td><td>県学力向上成果普及教員</td><td>10月31日</td><td>小中</td><td>15人</td></tr><tr><td rowspan="3">いじめ・不登校等解消に向けた研修会</td><td>Q-U活用研修会 センター研修①・②</td><td>早稲田大学講師</td><td>8月、1月</td><td>小中</td><td>47人</td></tr><tr><td>Q-U活用研修会 出前研修（小）①・②</td><td>早稲田大学講師</td><td>7月、12月</td><td>栗駒南小</td><td>28人</td></tr><tr><td>Q-U活用研修会 出前研修（中）①・②</td><td>早稲田大学講師</td><td>9月、12月</td><td>若柳中</td><td>48人</td></tr><tr><td rowspan="10">職務別研修会</td><td rowspan="5">学びの土台づくりに向けた研修会</td><td>幼稚園長研修会①・②</td><td>市特任教授</td><td>4月、12月</td><td>幼</td><td>17人</td></tr><tr><td>幼稚園主任研修会①・②</td><td>市特任教授</td><td>5月、1月</td><td>幼</td><td>18人</td></tr><tr><td>幼稚園研究主任研修会①・②</td><td>市特任教授</td><td>4月、1月</td><td>幼</td><td>19人</td></tr><tr><td>幼稚園5年経過等教員研修会</td><td>市特任教授等</td><td>9月20日</td><td>幼</td><td>7人</td></tr><tr><td>新任幼稚園教諭・保育士研修会</td><td>市立幼稚園長</td><td>5月23日</td><td>幼</td><td>27人</td></tr><tr><td rowspan="5">資質・指導力向上に向けた研修会</td><td>校長研修会</td><td>東部教育事務所副参事</td><td>5月19日</td><td>小中</td><td>45人</td></tr><tr><td>幼小中学年主任研修会①・②</td><td>特任教授</td><td>5月、1月</td><td>幼小中</td><td>47人</td></tr><tr><td>初任者研修①（含市転入職員）・②</td><td>文化財保護課学芸員ほか</td><td>5月、8月</td><td>小中</td><td>40人</td></tr><tr><td>学校補助員研修会①～③</td><td>金成支援学校教諭</td><td>5月、9月、10月</td><td>幼小中</td><td>73人</td></tr><tr><td>市費教諭等研修会</td><td>市教育研究センター副参事</td><td>5月16日</td><td>小中</td><td>11人</td></tr><tr><td rowspan="2">臨時研修会</td><td>幼稚園預かり保育担当補助員研修会</td><td>金成支援学校教諭</td><td>7月12日</td><td>幼</td><td>18人</td></tr><tr><td>ICT活用研修会①・②</td><td>NECネットエスアイ（株）</td><td>2月、3月</td><td>小中</td><td>34人</td></tr></table>						研修名		講師	開催日	対象	参加人数（延べ人数）	学力向上に向けた授業づくり研修会	算数・数学研修会①～④	大仙市教委指導主事ほか	6月、8月、11月、12月	小中	102人	外国語活動・英語研修会①・②	県学力向上成果普及教員ほか	6月、8月	小中	25人	ICT活用研修会①～③	県総合教育センター指導主事	7月、8月、11月	小中	75人	言語活動充実研修会	県学力向上成果普及教員	10月31日	小中	15人	いじめ・不登校等解消に向けた研修会	Q-U活用研修会 センター研修①・②	早稲田大学講師	8月、1月	小中	47人	Q-U活用研修会 出前研修（小）①・②	早稲田大学講師	7月、12月	栗駒南小	28人	Q-U活用研修会 出前研修（中）①・②	早稲田大学講師	9月、12月	若柳中	48人	職務別研修会	学びの土台づくりに向けた研修会	幼稚園長研修会①・②	市特任教授	4月、12月	幼	17人	幼稚園主任研修会①・②	市特任教授	5月、1月	幼	18人	幼稚園研究主任研修会①・②	市特任教授	4月、1月	幼	19人	幼稚園5年経過等教員研修会	市特任教授等	9月20日	幼	7人	新任幼稚園教諭・保育士研修会	市立幼稚園長	5月23日	幼	27人	資質・指導力向上に向けた研修会	校長研修会	東部教育事務所副参事	5月19日	小中	45人	幼小中学年主任研修会①・②	特任教授	5月、1月	幼小中	47人	初任者研修①（含市転入職員）・②	文化財保護課学芸員ほか	5月、8月	小中	40人	学校補助員研修会①～③	金成支援学校教諭	5月、9月、10月	幼小中	73人	市費教諭等研修会	市教育研究センター副参事	5月16日	小中	11人	臨時研修会	幼稚園預かり保育担当補助員研修会	金成支援学校教諭	7月12日	幼	18人	ICT活用研修会①・②	NECネットエスアイ（株）	2月、3月	小中	34人
研修名		講師	開催日	対象	参加人数（延べ人数）																																																																																																											
学力向上に向けた授業づくり研修会	算数・数学研修会①～④	大仙市教委指導主事ほか	6月、8月、11月、12月	小中	102人																																																																																																											
	外国語活動・英語研修会①・②	県学力向上成果普及教員ほか	6月、8月	小中	25人																																																																																																											
	ICT活用研修会①～③	県総合教育センター指導主事	7月、8月、11月	小中	75人																																																																																																											
	言語活動充実研修会	県学力向上成果普及教員	10月31日	小中	15人																																																																																																											
いじめ・不登校等解消に向けた研修会	Q-U活用研修会 センター研修①・②	早稲田大学講師	8月、1月	小中	47人																																																																																																											
	Q-U活用研修会 出前研修（小）①・②	早稲田大学講師	7月、12月	栗駒南小	28人																																																																																																											
	Q-U活用研修会 出前研修（中）①・②	早稲田大学講師	9月、12月	若柳中	48人																																																																																																											
職務別研修会	学びの土台づくりに向けた研修会	幼稚園長研修会①・②	市特任教授	4月、12月	幼	17人																																																																																																										
		幼稚園主任研修会①・②	市特任教授	5月、1月	幼	18人																																																																																																										
		幼稚園研究主任研修会①・②	市特任教授	4月、1月	幼	19人																																																																																																										
		幼稚園5年経過等教員研修会	市特任教授等	9月20日	幼	7人																																																																																																										
		新任幼稚園教諭・保育士研修会	市立幼稚園長	5月23日	幼	27人																																																																																																										
	資質・指導力向上に向けた研修会	校長研修会	東部教育事務所副参事	5月19日	小中	45人																																																																																																										
		幼小中学年主任研修会①・②	特任教授	5月、1月	幼小中	47人																																																																																																										
		初任者研修①（含市転入職員）・②	文化財保護課学芸員ほか	5月、8月	小中	40人																																																																																																										
		学校補助員研修会①～③	金成支援学校教諭	5月、9月、10月	幼小中	73人																																																																																																										
		市費教諭等研修会	市教育研究センター副参事	5月16日	小中	11人																																																																																																										
臨時研修会	幼稚園預かり保育担当補助員研修会	金成支援学校教諭	7月12日	幼	18人																																																																																																											
	ICT活用研修会①・②	NECネットエスアイ（株）	2月、3月	小中	34人																																																																																																											
評価																																																																																																																
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）																																																																																																															
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）																																																																																																															
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）																																																																																																															
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）																																																																																																															
4 平成29年度に向けた課題・今後の方針																																																																																																																
特別の教科「道徳」、小学校5・6年の教科「外国語（英語）」の完全実施等へ向けた教員研修の設定のほか、市立小中学校児童生徒の学力向上に資する教員研修の充実が必要である。			➡	市教委が指定した「学力向上研究指定校」への支援の充実を図る。具体的には、指定校各校への支援を行う特任教授の派遣を積極的に行う。																																																																																																												
5 学識経験者の意見																																																																																																																
教育研究センターが教員研修の場としてきちんと機能していることがわかる。研修内容も現場で必要とされる多岐にわたる研修会が開催され、また現在不足している領域についても把握されている。今後のさらなる充実を期待する。																																																																																																																

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの確かな学力の育成																																																																																																	
	具体的施策	学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成		担当課 学校教育課																																																																																																	
1 目的																																																																																																					
多様な手法により、学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習習慣の形成を行い、確かな学力の育成と、学びの連続性を確立する。																																																																																																					
2 具体的事業																																																																																																					
施策を構成する事業			目標指標																																																																																																		
7「Q-U（学級生活満足度尺度）調査（注1）」 （注1）心理学者である河村茂雄氏が開発した、観察や面接による主観的な児童生徒理解を補う、児童生徒個々及び学級の状態を客観的にとらえる質問紙調査である。標準化された心理テストであることから、全国平均値が分かり、それと比較・検討することができる。			Q-U調査における満足度群の人数の割合 現状値（平成27年度） 小学校 57.5%、中学校 59.2% 目標値（平成28年度） 小学校 60%以上、中学校 60%以上 実績値（平成28年度） 小学校 62% 中学校 62% Q-U調査における要支援群の人数の割合 現状値（平成27年度） 小学校 3.7%、中学校 5.1% 目標値（平成28年度） 小学校 3%以下、中学校 4%以下 実績値（平成28年度） 小学校 2% 中学校 4% ※以上から達成率100%																																																																																																		
事業概要及び目標 Q-U調査を実施し、子どもたちの学校での満足度（尺度）を把握することにより、いじめ、不登校等の問題行動を事前に把握し、指導することで、やる気のある学級集団づくり、居心地のよい学級集団づくりを目指す。また、年2回実施し、満足度の向上が図られたかどうかを比較することにより、これまでの指導の成果や今後の課題を把握し、さらに改善を図る。																																																																																																					
3 平成28年度の取り組みと自己評価																																																																																																					
取り組みと成果																																																																																																					
全ての小・中学校で年2回（5月・11月）実施し、その結果の活用の仕方について、教育研究センターでの2回の悉皆研修会や小・中学校各1校への出前研修会（各校2回）を実施し普及を図った。 小・中学校ともに全国平均に比べ、学校生活「満足群」の割合が高く、「不満足群」の割合が低いという結果だった。また、5月に比べ11月の調査結果が好ましいものとなっていることから、各校において結果を生かした学級経営・学級集団づくりが行われたことが分かる。一方、「要支援群」にある児童生徒数は少ないとはいえ、中学校において微増の傾向が見られることから、全校体制での見守り、声掛け等が必要である。 なお、Q-U調査の結果をもとに、調査の分析手法を学び今後の学級活動に活かすため、出前研修を栗駒南小学校（7月と12月）と若柳中学校（9月と12月）で実施した。																																																																																																					
<table><tr><th colspan="7">平成28年度 Q-U調査の結果</th></tr><tr><th></th><th></th><th>学級生活満足群(注1)</th><th>侵害行為認知群(注2)</th><th>非承認群(注3)</th><th>学級生活不満足群(注4)</th><th>要支援群(注5)</th><th>計</th></tr><tr><td rowspan="2">小学校(5月)</td><td>実人数(人)</td><td>1,637人</td><td>325人</td><td>530人</td><td>489人</td><td>98人</td><td>2,981人</td></tr><tr><td>割合</td><td>55%</td><td>11%</td><td>18%</td><td>16%</td><td>3%</td><td>100%</td></tr><tr><td rowspan="2">小学校(11月)</td><td>実人数(人)</td><td>1,848人</td><td>292人</td><td>468人</td><td>299人</td><td>63人</td><td>2,970人</td></tr><tr><td>割合</td><td>62%</td><td>10%</td><td>16%</td><td>10%</td><td>2%</td><td>100%</td></tr><tr><td rowspan="2">中学校(5月)</td><td>実人数(人)</td><td>986人</td><td>171人</td><td>230人</td><td>266人</td><td>66人</td><td>1,653人</td></tr><tr><td>割合</td><td>60%</td><td>10%</td><td>14%</td><td>16%</td><td>4%</td><td>100%</td></tr><tr><td rowspan="2">中学校(11月)</td><td>実人数(人)</td><td>1,018人</td><td>145人</td><td>223人</td><td>199人</td><td>62人</td><td>1,647人</td></tr><tr><td>割合</td><td>62%</td><td>9%</td><td>14%</td><td>12%</td><td>4%</td><td>100%</td></tr><tr><td rowspan="3">全国平均の割合</td><td>小学1～3年</td><td>41%</td><td>17%</td><td>19%</td><td>23%</td><td>-</td><td>100%</td></tr><tr><td>小学4～6年</td><td>39%</td><td>18%</td><td>18%</td><td>25%</td><td>-</td><td>100%</td></tr><tr><td>中学1～3年</td><td>37%</td><td>15%</td><td>17%</td><td>31%</td><td>-</td><td>100%</td></tr></table> ※網掛けは、目標値以上の値					平成28年度 Q-U調査の結果									学級生活満足群(注1)	侵害行為認知群(注2)	非承認群(注3)	学級生活不満足群(注4)	要支援群(注5)	計	小学校(5月)	実人数(人)	1,637人	325人	530人	489人	98人	2,981人	割合	55%	11%	18%	16%	3%	100%	小学校(11月)	実人数(人)	1,848人	292人	468人	299人	63人	2,970人	割合	62%	10%	16%	10%	2%	100%	中学校(5月)	実人数(人)	986人	171人	230人	266人	66人	1,653人	割合	60%	10%	14%	16%	4%	100%	中学校(11月)	実人数(人)	1,018人	145人	223人	199人	62人	1,647人	割合	62%	9%	14%	12%	4%	100%	全国平均の割合	小学1～3年	41%	17%	19%	23%	-	100%	小学4～6年	39%	18%	18%	25%	-	100%	中学1～3年	37%	15%	17%	31%	-	100%
平成28年度 Q-U調査の結果																																																																																																					
		学級生活満足群(注1)	侵害行為認知群(注2)	非承認群(注3)	学級生活不満足群(注4)	要支援群(注5)	計																																																																																														
小学校(5月)	実人数(人)	1,637人	325人	530人	489人	98人	2,981人																																																																																														
	割合	55%	11%	18%	16%	3%	100%																																																																																														
小学校(11月)	実人数(人)	1,848人	292人	468人	299人	63人	2,970人																																																																																														
	割合	62%	10%	16%	10%	2%	100%																																																																																														
中学校(5月)	実人数(人)	986人	171人	230人	266人	66人	1,653人																																																																																														
	割合	60%	10%	14%	16%	4%	100%																																																																																														
中学校(11月)	実人数(人)	1,018人	145人	223人	199人	62人	1,647人																																																																																														
	割合	62%	9%	14%	12%	4%	100%																																																																																														
全国平均の割合	小学1～3年	41%	17%	19%	23%	-	100%																																																																																														
	小学4～6年	39%	18%	18%	25%	-	100%																																																																																														
	中学1～3年	37%	15%	17%	31%	-	100%																																																																																														
評価																																																																																																					
A	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）																																																																																																				
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）																																																																																																				
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）																																																																																																				
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）																																																																																																				
4 平成29年度に向けた課題・今後の方針																																																																																																					
実際に各学級がどのような取組を行い学級生活の改善につなげたのかについて検証し、その結果を学級集団づくり・人間関係づくりという視点で、他へ広めていく必要がある。			➡	Q-U調査の分析結果に基づく教員向けの研修会を、学級集団づくり・人間関係づくりについて互いに考える場とし、より具体的場面を想定した研修ができるよう設定する。																																																																																																	
5 学識経験者の意見																																																																																																					
Q-U調査による児童生徒の実態の把握とその後の改善について、真摯に取り組んでいることがわかる。ただし、数値の改善が目標となってしまうよう注意が必要であろう。																																																																																																					

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの確かな学力の育成
	具体的施策	学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成		担当課 学校教育課

1 目的

多様な手法により、学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習習慣の形成を行い、確かな学力の育成と、学びの連続性を確立する。

2 具体的事業

施策を構成する事業	目標指標
8「学力向上支援事業」	N R T（市独自の学力調査）の調査における標準偏差値の向上
事業概要及び目標	現状値（平成27年度） 小学校全体の標準偏差値：51.3 中学校全体の標準偏差値：47.2 目標値（平成28年度） 小学校全体の標準偏差値：54 中学校全体の標準偏差値：49 実績値（平成28年度） 小学校全体の標準偏差値：50.6 中学校全体の標準偏差値：47.3 達成率 小学校 93.7%、中学校 96.5%

3 平成28年度の取り組みと自己評価

取り組みと成果

学習会支援事業については、市内小中学校の校長会や教頭会で周知し活用を促してきたところであるが、小学校7校（前年比▲2校）、中学校3校（前年比＋1校）となっている。
今後も、全校実施を目指し周知を徹底するとともに活用手法についても指導する。
また、標準学力検査を行った結果、小学校では全4教科の内、全国偏差値平均値50を上回っていた科目が国語、算数、中学校では、全ての学年で全国偏差値平均値の50に達していない結果となった。調査結果については、各分野の分析を行い、その分析結果を各学校に周知し、分かる授業づくりに活かす必要がある。

小中学校学習会推進事業

小学校	築館、玉沢、栗駒、栗駒南、一迫、志波姫、花山
中学校	築館、金成、志波姫

平成28年度 全国標準学力検査（NRT）結果（偏差値比較）

中学校（8校）

人数	平均	国語	社会	数学	理科	英語
1,651人	47.3	49.2	47.1	47.0	46.4	45.9

小学校（13校）

人数	平均	国語	社会	算数	理科
2,505人	50.6	51.2	49.2	50.6	49.3

平成28年度 全国学力状況調査結果（点数比較）

小学校6年生：503人 中学校3年生：570人

	国語		算数		国語		数学	
	A	B	A	B	A	B	A	B
栗原市	72.7	54.7	74.9	42.8	73.3	61.1	52	36.9
全国	72.9	57.8	77.6	47.2	75.6	66.5	62.2	44.1
県	72	56.2	76.6	45.6	76.9	67.9	60.4	43.8

平成28年度 宮城県学力状況調査結果

小学校5年生：502人 中学校2年生：562人

	国語		算数		国語		数学		英語	
	基礎	活用	基礎	活用	基礎	活用	基礎	活用	基礎	活用
栗原市	65.5	55.4	66.7	56.8	69	57.9	58	38.8	68.9	46.7
県	64.5	51.1	67.3	57.4	69.3	60.1	62	42	72.2	52.2

評価

B

A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）
D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 平成29年度に向けた課題・今後の方針

放課後や家庭における学習する機会を確保し、学習の質とともに量（時間）も充実させる必要がある。

➡

学び支援コーディネーター等事業を活用しながら、放課後や休日の学習の機会を充実させる。

5 学識経験者の意見

学習会支援事業が活用されない理由について把握する必要がある。理由の把握なしに「全校実施を目指し周知徹底」「活用手法の指導」を行うことは、好ましくない。また、標準学力検査の結果に一喜一憂するのではなく、児童生徒の実態に即した学力向上の方策を工夫していく必要があるのではない。

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの確かな学力の育成																																					
	具体的施策	学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成			担当課 学校教育課																																				
1 目的																																									
多様な手法により、学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習習慣の形成を行い、確かな学力の育成と、学びの連続性を確立する。																																									
2 具体的事業																																									
施策を構成する事業			目標指標																																						
9「学府くりはら塾」「学び支援コーディネーター等配置事業」																																									
事業概要及び目標																																									
家庭との連携による自主的学習の習慣化と、家庭学習の内容を充実させるため、宮城教育大学との連携により、中学生を対象として長期休業中に「学府くりはら塾」を実施する。 また、「学び支援コーディネーター等配置事業」の中で小学生を対象とした「放課後学習会」「週末学習会」「長期休業中の学習会」を実施し、自主的学習習慣の形成を図り、学力向上を目指す。 加えて、各学校への周知を行い参加者の増加を図る。 【事業目標】：アンケート結果から ①学習会が役に立ち勉強が分かるようになった ②自分で計画を立てて勉強することが楽しい ①②の児童の割合が80%以上																																									
3 平成28年度の取り組みと自己評価																																									
取り組みと成果																																									
学び支援コーディネーター事業については、昨年の課題を踏まえ各学校に周知し「放課後学習会」で新たに、一迫小学校が取組を行った。 また、「学府くりはら塾」と「学び支援コーディネーター等配置事業」については、下記の表のとおりである。 それぞれの学習会等に参加した児童は、自らが目標を設定し自主学習や問題集に取り組んでいた。また、学府くりはら塾に参加した生徒からは、「丁寧に指導を受け理解できた」「来年もまた来たい」等の意見があった。 「放課後学習会」は、新たな学校が取り組んだことにより、参加者が大幅に増えたが、「週末学習会」「冬休み学習会」への参加者が減ったことから、さらなる周知を図る必要がある。																																									
<table><tr><td>事業名</td><td colspan="5">学府くりはら塾</td></tr><tr><td>実施期間</td><td colspan="5">8/16～8/20</td></tr><tr><td>場所</td><td colspan="5">教育研究センター</td></tr><tr><td>対象者</td><td colspan="5">中1～3年</td></tr><tr><td>参加者</td><td colspan="5">339人</td></tr><tr><td>指導者</td><td colspan="5">41人</td></tr></table>						事業名	学府くりはら塾					実施期間	8/16～8/20					場所	教育研究センター					対象者	中1～3年					参加者	339人					指導者	41人				
事業名	学府くりはら塾																																								
実施期間	8/16～8/20																																								
場所	教育研究センター																																								
対象者	中1～3年																																								
参加者	339人																																								
指導者	41人																																								
(平成29年3月末現在)																																									
<table><tr><td>事業名</td><td colspan="2">放課後学習会</td><td>週末学習会</td><td>夏休み学習会</td><td>冬休み学習会</td></tr><tr><td>実施期間</td><td>7/11～11/14</td><td>7/11～12/12</td><td>10/15～2/25</td><td>8/10～8/12</td><td>12/25～12/27</td></tr><tr><td>場所</td><td>花山小学校</td><td>一迫小学校</td><td>教育研究センター、栗原文化会館、若柳公民館</td><td>栗原文化会館、教育研究センター</td><td>栗原文化会館、教育研究センター</td></tr><tr><td>対象者</td><td>小3～6年</td><td>小2～6年</td><td>小3～6年</td><td>小3～6年</td><td>小3～6年</td></tr><tr><td>参加者</td><td>80人</td><td>348人</td><td>140人</td><td>416人</td><td>114人</td></tr><tr><td>指導者</td><td>31人</td><td>29人</td><td>39人</td><td>79人</td><td>76人</td></tr></table>						事業名	放課後学習会		週末学習会	夏休み学習会	冬休み学習会	実施期間	7/11～11/14	7/11～12/12	10/15～2/25	8/10～8/12	12/25～12/27	場所	花山小学校	一迫小学校	教育研究センター、栗原文化会館、若柳公民館	栗原文化会館、教育研究センター	栗原文化会館、教育研究センター	対象者	小3～6年	小2～6年	小3～6年	小3～6年	小3～6年	参加者	80人	348人	140人	416人	114人	指導者	31人	29人	39人	79人	76人
事業名	放課後学習会		週末学習会	夏休み学習会	冬休み学習会																																				
実施期間	7/11～11/14	7/11～12/12	10/15～2/25	8/10～8/12	12/25～12/27																																				
場所	花山小学校	一迫小学校	教育研究センター、栗原文化会館、若柳公民館	栗原文化会館、教育研究センター	栗原文化会館、教育研究センター																																				
対象者	小3～6年	小2～6年	小3～6年	小3～6年	小3～6年																																				
参加者	80人	348人	140人	416人	114人																																				
指導者	31人	29人	39人	79人	76人																																				
評価																																									
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）																																								
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）																																								
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）																																								
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）																																								
4 平成29年度に向けた課題・今後の方針																																									
学び支援コーディネーター等配置事業において、各学校の活用度合いに差がある。			事業内容の十分な説明とともに、各学校に参加についての周知を行い、参加者の増加を図る。																																						
5 学識経験者の意見																																									
児童生徒に授業以外の学びの場を作るという点で重要な事業である。「週末学習会」や「冬休み学習会」の参加者が減った理由については、単なる周知不足なのか、他の理由はないのかを把握する必要があるだろう。																																									

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの確かな学力の育成																											
	具体的施策	学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成		担当課 学校教育課																											
1 目的																															
社会の情報化が進展していく中で、児童生徒が情報や情報手段を主体的に選択し活用していくための個人の基礎的な情報活用能力を身に付けさせ、主体的に活用していく力を備えることが必要である。 そのため、基礎的な情報活用能力を身に付けるため、小・中学校にＩＣＴ環境を整備し児童生徒の情報教育を推進するとともに、学習意欲の向上を図る。																															
2 具体的事業																															
施策を構成する事業			目標指標																												
10「学校ＩＣＴ環境推進事業」 ※「ＩＣＴ」とは、コンピューターやインターネットなどの情報通信技術																															
事業概要及び目標 個人の基礎的な情報活用能力を身に付け、情報化社会に主体的に対応していく力を備えるとともに、児童・生徒の「学習意欲の向上」と「学力の向上」のため、ＩＣＴ環境を活用する。																															
3 平成28年度の取り組みと自己評価																															
取り組みと成果																															
○平成28年度導入内容 ・市内小学校（13校） 【ハード】 ・タブレットＰＣ 436台 ・インクジェット複合プリンタ 13台 ・プロジェクター型電子黒板 52台 【ソフト】 ・小学校向けタブレット活用総合ソフト 436個 ・国語・算数ドリルソフト 13個 ・電子教科書 13個 ○平成28年度活用研修（教育研究センター事業） ・7月：ＩＣＴ活用推進研修：小学校13人、中学校8人 ・8月：タブレットＰＣの基本的な操作と活用についての研修：小学校21人、中学校2人 ・11月：特別に配慮が必要な児童生徒のためのＩＣＴ活用についての研修：小学校14人、中学校5人																															
中学校の活用状況																															
<table><tr><th>学校名</th><th>使用教科</th><th>使用時間</th></tr><tr><td>築館</td><td>国語、技術家庭、体育</td><td>単元2～10時間</td></tr><tr><td>若柳</td><td>技術</td><td>単元3時間</td></tr><tr><td>栗駒</td><td>総合学習、英語</td><td>数時間</td></tr><tr><td>高清水</td><td>国語、英語、技術、総合学習</td><td>数時間</td></tr><tr><td>栗原西</td><td>技術</td><td>単元20時間</td></tr><tr><td>瀬峰</td><td>数学、理科、総合学習</td><td>週5時間</td></tr><tr><td>金成</td><td>技術、国際キャリア科</td><td>単元6時間、週3時間</td></tr><tr><td>志波姫</td><td>社会</td><td>単元2時間</td></tr></table>					学校名	使用教科	使用時間	築館	国語、技術家庭、体育	単元2～10時間	若柳	技術	単元3時間	栗駒	総合学習、英語	数時間	高清水	国語、英語、技術、総合学習	数時間	栗原西	技術	単元20時間	瀬峰	数学、理科、総合学習	週5時間	金成	技術、国際キャリア科	単元6時間、週3時間	志波姫	社会	単元2時間
学校名	使用教科	使用時間																													
築館	国語、技術家庭、体育	単元2～10時間																													
若柳	技術	単元3時間																													
栗駒	総合学習、英語	数時間																													
高清水	国語、英語、技術、総合学習	数時間																													
栗原西	技術	単元20時間																													
瀬峰	数学、理科、総合学習	週5時間																													
金成	技術、国際キャリア科	単元6時間、週3時間																													
志波姫	社会	単元2時間																													
評価																															
<table><tr><td rowspan="4">B</td><td>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）</td></tr><tr><td>B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）</td></tr><tr><td>C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）</td></tr><tr><td>D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）</td></tr></table>					B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）																						
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）																														
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）																														
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）																														
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）																														
4 平成29年度に向けた課題・今後の方針																															
全市立小中学校にタブレットＰＣが導入され、活用も進んでいるが、更なる有効な活用の仕方についての研修を行う必要がある。 → ＩＣＴ活用に係る校内研修の進め方やタブレット端末等のＩＣＴ機器を効果的に活用した授業づくりについての研修を実施する。また、市立小中学校への出前研修の充実を図る。																															
5 学識経験者の意見																															
市内のすべての小中学校にタブレットＰＣが導入されたとのことで、今後いかに活用するかについて継続的な取組が必要と思われる。効果的な活用が重要であり、使用時間を増やすことが目標とならないように注意が必要であろう。																															

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの確かな学力の育成	
	具体的施策	学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成		担当課	学校教育課

1 目的

多様な手法により、学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習習慣の形成を行い、確かな学力の育成と、学びの連続性を確立する。

2 具体的事業

施策を構成する事業		目標指標	
11「国際田園都市づくり英語教育導入事業」「語学指導外国青年招致事業」		中学生の英語検定の合格率（5級から準2級）	
事業概要及び目標		現状値（平成27年度）71.8%	
小学校の低学年から英語に慣れ親しませるため、ALTを活用して、小学校外国語活動の充実を図る。また、宮城教育大学の留学生との交流事業や小学校外国語活動に関する研修会の開催を実施する。 JETプログラムにより、各中学校に外国語指導助手を配置し、生徒の外国語教育充実と国際理解を深める。併せて、学校のクラブ設置を積極的に働きかける。 （注1）JETプログラム…国が行っている語学指導等を行う外国青年招致事業 （注2）ALT…外国語指導助手（英語や英語活動の授業で日本人教師を補助する外国人教師） （注3）ノンJET…国が行っているJETプログラム事業以外の事業で、ここでは民間への業務委託のこと		目標値（平成28年度）75.0%	
		実績値（平成28年度）58.3%	
		達成率77.7%	

3 平成28年度の取り組みと自己評価

取り組みと成果

昨年度の課題と今年度の方針を踏まえ、小学校外国語活動については、ノンJETのALT4人と、中学校に配置しているJETプログラムのALT3人を活用し、金成小学校を除く小学校の3・4年生で年間15時間程度、5・6年生については年間35時間の外国語活動を実施している。

さらに、金成小学校では、小中一貫校のメリットを生かし、独自の教育課程として、「国際キャリア科」を創設しており、1年生から9年生までの成長過程に応じた英語教育を展開している。

夏季休業中に、小学校3年生以上を対象に活動全般を英語だけで過ごす「英語でチャレンジ」や「英語でキャンプ」を実施し、児童からは、楽しく活動ができ英語が好きになったなど、大変好評だった。また、宮城教育大学留学生との交流事業を2小学校で実施した。

また、学力向上に向けた授業づくり研修会として、外国語活動・英語研修会を教育研究センターを会場に2回開催し、教員の指導力向上に努めた。

小学校英語活動				
事業名	期 日	会 場	対象・学年	参加人数
英語でチャレンジ	8月2日（火）	この花さくや姫プラザ	3～5年	36人
	10月11日（火）			29人
英語でキャンプ	8月3日（水）～4日（木）	国立花山青少年自然の家	5・6年	21人
宮城教育大学留学生との交流事業	12月7日（水）	金成小学校	3～4年	95人
		若柳小学校		169人

ALT配置状況

	小学校		中学校	
	校数	学校名	校数	学校名
JET	3校	高清水、瀬峰、志波姫	8校	築館、若柳、栗駒、高清水、栗原西、金成、瀬峰、志波姫
ノンJET	10校	築館、宮野、玉沢、若柳、栗駒、栗駒南、一迫、金成、鶯沢、花山	-	-

評 価

B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 平成29年度に向けた課題・今後の方針

次期学習指導要領の改訂に向けて、外国語活動研修会を充実させ、教員の指導力の向上を図る必要がある。

→

小学校の中学年から英語に慣れ親しむ活動を教育課程に位置づけるとともに、年2回の外国語研修会を実施し、教員の指導力の向上を図る。

5 学識経験者の意見

英語は使う場があつてはじめて学ぶ意欲がわいてくる。「英語でチャレンジ」や「英語でキャンプ」の実施や宮城教育大学の留学生の交流などの場を継続し可能ならば拡張してほしい。英検の受験率や合格率等を目標にすることは英語学習の意欲をそぐ可能性もあるので注意が必要ではないか。

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	安全・安心な学校教育の推進													
	具体的施策	自らの命を守るための防災教育と安全・安心な学校教育の推進			担当課 学校教育課												
1 目的																	
自らの命を守るための防災教育を推進し、安全・安心な学校をめざし、幼児児童生徒の安全確保と学校の安全管理に万全を期する。																	
2 具体的事業																	
施策を構成する事業			目標指標														
12「防災主任研修会」			防災主任研修会への参加校数														
事業概要及び目標			現状値（平成27年度） 小学校：13校/13校 中学校：8校/8校 目標値（平成28年度） 小学校：13校/13校 中学校：8校/8校 実績値（平成28年度） 小学校：13校/13校 中学校：8校/8校 達成率 100%														
児童生徒の安全確保を図る危機管理体制の確立と関係機関との連携強化のため、すべての小・中学校で防災マニュアルの見直しを行い、それに基づいて児童生徒の安全確保を図る危機管理体制を確立する。また、関係機関との連携を図り、自らの命を守るための防災教育を充実させるために、防災主任を対象として研修会を実施する。																	
3 平成28年度の取り組みと自己評価																	
取り組みと成果																	
今年度の方針に基づき、栗原市教育委員会では2回の研修会を実施した。 第1回の研修会では、「防災ジオ読本の活用方法」について、一迫小学校の防災主幹教諭から栗原地域の自然や火山、災害の状況を説明いただき活用事例の紹介、また、志波姫小学校の防災主幹教諭からは「防災教育副読本に係る年間指導計画の作成」について、今年度の取組概要の発表をもとに、研究協議を実施した。 なお、10月28日（金）には、栗駒小学校で「防災教育自主公開研究会」が開かれ、栗駒山麓ジオパーク副読本「くりはら大地の物語」を活用した防災について考える授業が公開された。																	
<table><tr><th>事業名</th><th>開催日</th><th>内容</th><th>参加人数</th></tr><tr><td>第1回栗原市防災主任研修会</td><td>6月27日（月）</td><td>○研修「防災ジオ読本の理解と活用について」 ○研修「みやぎ防災教育副読本に係る年間指導計画」</td><td>23人</td></tr><tr><td>第2回栗原市防災主任研修会</td><td>10月28日（金）</td><td>○みやぎ防災教育推進事業公開研究会への参加（栗小） 講演会「岩手・宮城内陸地震からの復興」</td><td>26人</td></tr></table>						事業名	開催日	内容	参加人数	第1回栗原市防災主任研修会	6月27日（月）	○研修「防災ジオ読本の理解と活用について」 ○研修「みやぎ防災教育副読本に係る年間指導計画」	23人	第2回栗原市防災主任研修会	10月28日（金）	○みやぎ防災教育推進事業公開研究会への参加（栗小） 講演会「岩手・宮城内陸地震からの復興」	26人
事業名	開催日	内容	参加人数														
第1回栗原市防災主任研修会	6月27日（月）	○研修「防災ジオ読本の理解と活用について」 ○研修「みやぎ防災教育副読本に係る年間指導計画」	23人														
第2回栗原市防災主任研修会	10月28日（金）	○みやぎ防災教育推進事業公開研究会への参加（栗小） 講演会「岩手・宮城内陸地震からの復興」	26人														
評価																	
A		A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上） B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満） C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満） D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）															
4 平成29年度に向けた課題・今後の方針																	
地域の実情、実態に応じた実践についての研修を行う必要がある。			防災主任等研修会において、「栗駒山麓ジオパーク副読本」活用についての研修や、栗駒山崩落現場の実地踏査を行い、実践に生かす研修を行っていく。														
5 学識経験者の意見																	
災害に対する備えは継続的に行うことが重要である。今後も研修会を引き続き開催し、日常生活の中でいかに災害に対して備えていくことができるかを学校全体で考えていける体制を維持していく必要がある。																	

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	安全・安心な学校教育の推進	
	具体的施策	自らの命を守るための防災教育と安全・安心な学校教育の推進		担当課	学校教育課
1 目的					
自らの命を守るための防災教育を推進し、安全・安心な学校をめざし、幼児児童生徒の安全確保と学校の安全管理に万全を期する。					
2 具体的事業					
施策を構成する事業			目標指標		
13「地域と連携した避難訓練の推進」			地域と連携し避難訓練等の実施した幼稚園の数		
事業概要及び目標			現状値（平成27年度） 3園/9園実施		
幼児の安全確保に向けた危機管理体制の確立を図り、適切な訓練を実施するために、関係機関との連携を図りながら、防災担当者を中心として防災教育に取り組む。			目標値（平成28年度） 9園/9園実施		
			実績値（平成28年度） 5園/9園実施		
			達成率 55%		
3 平成28年度の取り組みと自己評価					
取り組みと成果					
今年度の方針に基づき、市内全ての幼稚園で、警察署や消防署等の関係機関と連携して避難訓練を実施するとともに、絵本や紙芝居などを活用した防災教育や、地域と連携した合同避難訓練に取り組んだ。					
今後も幼児の安全対策は重要であることから、防災教育・訓練を継続することが大切である。					
【地域と連携した防災訓練を実施した幼稚園】					
幼稚園名		期 日	訓 練 内 容		
一迫幼稚園		10月14日（金）	保育所、小学校と合同による避難訓練、防災講話（消防署）		
高清水幼稚園		10月14日（金）	保育所、支援センターと合同による避難訓練（消防署）、備蓄非常食での昼食		
金成幼稚園		11月16日（水）	保育所、金成総合支所と合同による不審者対策訓練		
花山幼稚園		12月9日（金）	保護者と合同による不審者対策訓練（駐在所、交通安全指導隊）		
瀬峰幼稚園		2月16日（木）	瀬峰総合支所と合同による不審者対策訓練		
評 価					
C	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）				
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）				
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）				
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）				
4 平成29年度に向けた課題・今後の方針					
幼児等の安全確保に向けて関係機関と連携しながら、更なる防災教育や防災訓練を充実していく必要がある。			➡	消防署や警察署等、関係機関との綿密な連携を図り、幼児の安全確保を図るための、避難訓練、防災教育の充実、危機管理体制の構築を図る。	
5 学識経験者の意見					
幼稚園での地域と連携した避難訓練の実施は、重要な取組である。実施できなかった園についてはその理由を把握し、防災教育と避難訓練が継続的にすべての園で実施できるよう引き続き取組に期待したい。					

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの豊かな心の醸成																	
	具体的施策	いじめを許さない学校づくりの推進		担当課 学校教育課																	
1 目的																					
いじめを許さない学校づくりを推進し、豊かな心を育む教育の推進と、問題の未然防止と早期発見・早期対応に努める。																					
2 具体的事業																					
施策を構成する事業			目標指標																		
14「栗原市いじめ防止基本方針に基づく対応」																					
事業概要及び目標																					
いじめの防止、いじめの早期発見、いじめへの対処のための対策を総合的かつ効果的に推進するため、栗原市いじめ防止基本方針に基づき、学校の内外を問わず、関係者が一体となりいじめ問題を克服する。																					
3 平成28年度の取り組みと自己評価																					
取り組みと成果																					
各学校では、「いじめ防止基本方針」に基づき、「いじめ」の定義への認識を再確認し、いじめの訴えや様子が見られた時には、「いじめ問題対策委員会」を開催し、情報共有の上で対策を立てるという認識が浸透してきた。 教育委員会においても、栗原市いじめ防止対策調査委員会を年3回開催し、関係者と連携を取りながら、いじめ防止に関する情報を共有することができた。 また、今年度の方針であった「重大事案発生時における緊急対応の手引き」作成についても、学校へ働きかけ市内小・中学校で作成した。																					
<table><tr><th>事業名</th><th>開催日</th><th>内容</th></tr><tr><td>栗原市いじめ防止対策調査委員会①</td><td>7月2日（土）</td><td>栗原市内のいじめ問題に関する取組の現状について</td></tr><tr><td>栗原市いじめ防止対策調査委員会②</td><td>10月29日（木）</td><td>重大事態発生時における緊急対応手引きについて</td></tr><tr><td>栗原市いじめ防止対策調査委員会③</td><td>2月18日（土）</td><td>命を大切にする教育の取組について</td></tr><tr><td>栗原市いじめ問題対策連絡協議会</td><td>2月20日（月）</td><td>学校現場におけるいじめ問題対策の現状について</td></tr></table>					事業名	開催日	内容	栗原市いじめ防止対策調査委員会①	7月2日（土）	栗原市内のいじめ問題に関する取組の現状について	栗原市いじめ防止対策調査委員会②	10月29日（木）	重大事態発生時における緊急対応手引きについて	栗原市いじめ防止対策調査委員会③	2月18日（土）	命を大切にする教育の取組について	栗原市いじめ問題対策連絡協議会	2月20日（月）	学校現場におけるいじめ問題対策の現状について		
事業名	開催日	内容																			
栗原市いじめ防止対策調査委員会①	7月2日（土）	栗原市内のいじめ問題に関する取組の現状について																			
栗原市いじめ防止対策調査委員会②	10月29日（木）	重大事態発生時における緊急対応手引きについて																			
栗原市いじめ防止対策調査委員会③	2月18日（土）	命を大切にする教育の取組について																			
栗原市いじめ問題対策連絡協議会	2月20日（月）	学校現場におけるいじめ問題対策の現状について																			
重大事案発生時における緊急対応の手引き作成スケジュール																					
<table><tr><th>事業名</th><th>開催日</th><th>内容</th></tr><tr><td>市立学校長会議</td><td>5月9日（月）</td><td>重大事案発生時における緊急対応の手引き作成について告知</td></tr><tr><td>市立小中学校教頭研修会</td><td>5月23日（月）</td><td>手引き作成スケジュール及び素案の説明</td></tr><tr><td>重大事案発生時における対応等に関する研修会</td><td>8月29日（月）</td><td>○弁護士 石井慎也氏 ○演題:「重大事態発生時における学校等の体制構築におけるポイントについて」 ○対象:各校管理職、安全担当教諭、生徒指導主任、いじめ・不登校担当 ※参加者:66人</td></tr><tr><td rowspan="2">重大事案発生時における緊急対応の手引き</td><td>平成28年12月末</td><td>完成</td></tr><tr><td>平成29年1～2月</td><td>○手引きの周知 ・全保護者に「いじめ対応の進め方」を配布 ・教職員全員に確かな理解と共通認識を持たせる</td></tr></table>					事業名	開催日	内容	市立学校長会議	5月9日（月）	重大事案発生時における緊急対応の手引き作成について告知	市立小中学校教頭研修会	5月23日（月）	手引き作成スケジュール及び素案の説明	重大事案発生時における対応等に関する研修会	8月29日（月）	○弁護士 石井慎也氏 ○演題:「重大事態発生時における学校等の体制構築におけるポイントについて」 ○対象:各校管理職、安全担当教諭、生徒指導主任、いじめ・不登校担当 ※参加者:66人	重大事案発生時における緊急対応の手引き	平成28年12月末	完成	平成29年1～2月	○手引きの周知 ・全保護者に「いじめ対応の進め方」を配布 ・教職員全員に確かな理解と共通認識を持たせる
事業名	開催日	内容																			
市立学校長会議	5月9日（月）	重大事案発生時における緊急対応の手引き作成について告知																			
市立小中学校教頭研修会	5月23日（月）	手引き作成スケジュール及び素案の説明																			
重大事案発生時における対応等に関する研修会	8月29日（月）	○弁護士 石井慎也氏 ○演題:「重大事態発生時における学校等の体制構築におけるポイントについて」 ○対象:各校管理職、安全担当教諭、生徒指導主任、いじめ・不登校担当 ※参加者:66人																			
重大事案発生時における緊急対応の手引き	平成28年12月末	完成																			
	平成29年1～2月	○手引きの周知 ・全保護者に「いじめ対応の進め方」を配布 ・教職員全員に確かな理解と共通認識を持たせる																			
評価																					
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）																				
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）																				
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）																				
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）																				
4 平成29年度に向けた課題・今後の方針																					
「命を大切にする教育」の推進と、「重大事案発生時における緊急対応の手引き」の定期的な確認・見直しが必要。			➡	手引きについては、保護者への周知を図り教職員と共通認識をもたせること、命を大切にする教育については、自死に対する研修で教員・保護者の理解を深める。																	
5 学識経験者の意見																					
いじめ防止に関する情報が共有され、重大事態発生時の対応の手引きが作成されたことは評価できる。社会においていじめの前段階となるような対人関係の問題は常に生じるものであり、「いじめがない」ことよりも「いじめに対して適切に対処できる」「事態が重篤化する前に解決を図る」ことを重視して取組を継続してほしい。																					

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの豊かな心の醸成	
	具体的施策	いじめを許さない学校づくりの推進			担当課 学校教育課
1 目 的					
いじめを許さない学校づくりを推進し、豊かな心を育む教育の推進と、問題の未然防止と早期発見・早期対応に努める。					
2 具体的事業					
施策を構成する事業			目標指標		
15「スクールソーシャルワーカー活用事業」			不登校者の出現率		
事業概要及び目標			現状値（平成26年度） 小学校 0.43% 中学校 3.49% 目標値（平成28年度） 小学校 0.41% 中学校 3.37% 【参考】：H26年度宮城県平均値 小学校 0.41% 中学校 3.37% 実績値（平成28年度） 小学校 0.3% 中学校 3.52%		
不登校傾向の児童生徒及び家庭に対して、スクールソーシャルワーカーを派遣して、学校・家庭・児童生徒・関係機関が連携して、問題解決に向かうことができるようにする。			達成率 136.6% 95.7%		
3 平成28年度の取り組みと自己評価					
取り組みと成果					
「スクールソーシャルワーカー活用事業」については、今年度から1名増員し2名のスクールソーシャルワーカーで児童生徒と家庭にかかわり、学校復帰や家庭内の問題解決に向けた取組を学校や教育相談員、関係機関と連携しながら支援を行った。 また、関係機関との連携の中で、市内小中学校への訪問や、ケース会議等を通して、各校の実態と課題について把握するとともに、今後の取組について協議を行った。 今後も学校、教育相談員、関係機関と連携を図りながら児童・生徒の問題解決に向けた取組を継続する。					
○スクールソーシャルワーカーの活動回数（平成29年3月末現在） 2名：68回活動					
○不登校者の出現率（平成29年3月末現在）					
	児童・生徒数	不登校者	出現率		
小学校	3,020人	9人	0.3%		
中学校	1,705人	60人	3.52%		
※不登校者の定義：30日以上学校を休んだ生徒					
評 価					
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）				
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）				
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）				
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）				
4 平成29年度に向けた課題・今後の方針					
不登校及び不登校傾向の児童・生徒は、依然として本市学校教育の大きな課題となっている。今後も関係機関が連携した総合的な取組が必要である。			➡	県の登校支援ネットワーク事業、スクールソーシャルワーカー活用事業、教育相談員等の活用と市子育て支援課との連携をさらに進め、児童生徒の問題行動等の解決に努めていく。	
5 学識経験者の意見					
2名体制となり、意見交換の場を広げ、様々な対応の在り方を一層深めていただきたい。					

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの豊かな心の醸成	
	具体的施策	一人一人を大切に、豊かな心を育むための道徳教育及び生徒指導、特別支援教育の推進			担当課 学校教育課
1 目的					
一人一人に夢と希望を持たせ、人間性豊かな心と主体的・自立的な態度の育成と障害のある児童生徒の自立と社会参加をめざす特別支援教育の推進を図る。 また、自分の夢や目標の実現のためによりよい生き方を主体的に探究する志教育の充実と推進を図る。					
2 具体的事業					
施策を構成する事業			目標指標		
16「志教育支援事業（注1）」 （注1）志教育…夢と志を持ち、その実現に向けて自ら考え行動し、社会を生き抜く人間を育む教育					
事業概要及び目標					
社会の中で自分が果たすべき役割は何か、さらに、自分の夢や目標の実現のためにどのような取組が必要かなどについて、自己を見つめ考えさせる志教育の充実と推進を図る。					
3 平成28年度の取り組みと自己評価					
取り組みと成果					
県研究指定校としての事業は昨年度で終了しているが、現在、小・中学校では、「夢・目標、異文化交流、職場体験等」の様々な項目を学校の環境や地域性に合わせ設定し、年間を通じて幅広く志教育を実践して志の高い児童・生徒の育成に寄与することができた。 今後は、教育委員会が各校で実施している特徴的な事例を紙面で紹介するなど、共有する手法を検討する。					
【活動実績】					
小学校	事業内容		中学校	事業内容	
築館小学校	たてわり活動で人間関係・社会性を身につける、地域自慢、エコ調査隊		築館中学校	福祉体験学習、地域ボランティア、職場体験学習、地域連携防災活動	
玉沢小学校	地域の方との農業体験交流、老人福祉施設交流、命の授業		若柳中学校	キャリア・スタート・ウィーク、福祉施設訪問、志教育発表会	
宮野小学校	高校生の学習支援、野菜収穫活動、ALTとの交流		栗駒中学校	ふるさと学習、高校の先輩の話を聞く、起業体験、福祉体験学習	
若柳小学校	丘絵灯籠づくり(夏祭りに展示)、福祉のつどい参加、地域に伝わる伝統文化の継承		高清水中学校	職場体験学習、国際交流行事、地区民運動会参加	
栗駒小学校	地域のお年寄りとの交流、まち探検、キャップハンディ体験		栗原西中学校	地域サポート活動、職場体験学習、アセアン交流事業	
栗駒南小学校	農業体験、地域めぐり、目指せジオパーク、清掃活動		瀬峰中学校	農業体験、ふるさと調査、職業調査、職場体験	
高清水小学校	1/2成人式、地域の人から学ぼう、地域の方と街頭で交通安全の呼びかけ		金成中学校	文化歴史研修、国際交流、福祉体験学習、立志式	
一迫小学校	まち探検、お年寄りとの交流、幼稚園との交流		志波姫中学校	ボランティア研修、職場体験、郷土芸能体験、社会を明るくする運動への参加	
瀬峰小学校	地域のよさの再発見、チャレンジボランティア、老人ホームのお年寄りとおふれあう				
鶯沢小学校	緑化活動、地域に伝わる伝統文化の継承、1/2成人式				
金成小学校	地域産業の体験、地域に伝わる伝統文化の継承、1/2成人式				
志波姫小学校	1/2成人式、農業体験、福祉体験				
花山小学校	まち探検、昆虫・メダカの飼育、お年寄りとの交流				
評価					
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）				
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）				
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）				
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）				
4 平成29年度に向けた課題・今後の方針					
市内の各小・中学校とも「志教育全体計画」「指導計画」が整備され、年間を通じて実践している。今後は、小学校の取組が中学校の取組へ関連・発展していくように改善することが必要である。			➡	中学校区を単位とし、互いの指導計画や取組の情報を共有する場を設定し、9年間を見通した志教育を推進するように指導・助言していく。	
5 学識経験者の意見					
方針にもあるように、9年間を見通した指導計画と実施の在り方の一層の検討をお願いしたい。					

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの豊かな心の醸成				
	具体的施策	一人一人を大切に、豊かな心を育むための道徳教育及び生徒指導、特別支援教育の推進		担当課	学校教育課			
1 目的								
一人一人に夢と希望を持たせ、人間性豊かな心と主体的・自立的な態度の育成と障害のある児童生徒の自立と社会参加をめざす特別支援教育の推進を図る。 また、豊かな心と主体的・自律的な態度を育成するための教育相談事業や、不登校に悩む児童生徒の学校復帰をめざし、基礎学力を身に付けるための支援を行う。								
2 具体的事業								
施策を構成する事業			目標指標					
17「教育相談員の配置」「適応指導教室事業」								
事業概要及び目標								
学校生活への適応指導の充実を図るため、教育相談員1人を配置して、いつでも相談支援ができる体制を整備する。 また、適応指導教室を設置し、栗原市在学青少年指導員2人と在学青少年指導員補助員1人を配置し、さらに、県よりみやぎ心のケア支援員1人（週1回）の派遣を受け、学校不適応傾向の児童生徒への学習の場を保障するとともに、登校に向けての支援を行う。								
3 平成28年度の取り組みと自己評価								
取り組みと成果								
教育相談員や在学青少年指導員の活動を通して、各小・中学校の不登校児童生徒の状況を把握するとともに、スクールソーシャルワーカー等と連携するなど適切な支援体制が整った。 本事業のねらいは、一人でも多くの児童生徒が学校復帰を果たすことである。学校復帰に係る過程は様々であり、「けやき教室」へ入所することもその一過程と捉えることができる。入所にあたっては、児童生徒一人ひとりの状況について、関係機関等の連絡・連携を密にしながら適切に把握した上で、入所することが当該児童生徒にとって学校復帰につながる効果的な一助となり得るかを十分に吟味・検討しながら進める必要がある。単なる入所者の多寡が重要なのではなく、適切に入所の働きかけがなされているかが重要であるとの考えのもとに利用の働きかけを進めた。 けやき教室に通所している児童生徒に対しては、在学青少年指導員と補助員が一人一人の状況に応じて指導にあたった結果、中学生1人が学校復帰を果たした。なお、所属校と連絡を密にして指導を継続した結果、通所した中学3年生全員が希望する高校への進学を果たした。								
(平成29年3月末現在)								
事業名		対応日時及び時間	対応状況					
教育相談		毎週火・水・金 8:30～17:15	来庁相談：4件、電話相談：10件、学校訪問相談：20件、その他：22件※					
けやき教室	毎週月～金、 8:30～15:30	開所日数	195日					
		通所人数	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生	合計	
			正式通所	0人	1人	2人	5人	8人
			体験通所	0人	1人	4人	2人	7人
		合計	0人	2人	6人	7人	15人	
※ その他については、けやき教室に係る打合せ								
評価								
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）							
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）							
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）							
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）							
4 平成29年度に向けた課題・今後の方針								
けやき教室は学校復帰の一過程なので、所属校と本人のつながりが途切れないようにけやき教室の様子を学校へ伝えることと、学校から本人への働きかけを継続することが必要である。			週1回、所属校への登校を促すチャレンジデーで本人が学校復帰に自信が持てるよう所属校と連携を密にしながら、生活リズムの改善と個別指導で学習の遅れの回復を図る。					
5 学識経験者の意見								
難しい状況も窺えるが、様々な関係者との連携の充実をお願いしたい。								

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの心身の健康と体力の向上
	具体的施策	健やかな身体を培う体育・健康教育の充実		担当課 学校教育課

1 目的	
健やかな身体を培う体育・健康教育の充実を進め、心身の健康の保持増進と体力の向上を図る。	

2 具体的事業	
施策を構成する事業	目標指標
18「全国体力・運動能力調査の結果分析」	全国体力・運動能力調査の平均値比較 ・全国の平均値（平成27年度） 小学生 男53.80 女55.18 中学生 男41.89 女49.08 現状値（平成27年度） 小学生 男52.57 女55.15 中学生 男42.49 女47.77 目標値（平成28年度） 小学生 男55 女56 中学生 男43 女50 ※目標値は全国平均を大きく上回る 実績値（平成28年度） 小学生 男52.69 女56.16 中学生 男42.52 女49.33 達成率 小学生 男95.8% 女100.28% 中学生 男98.88% 女98.66%
事業概要及び目標	
毎年、全ての小中学校で実施されている「全国体力・運動能力調査」の結果を累積し、継続してその変容を見ながら分析し、成果と課題を明確にした上で、対策を講じていく。 このことによって、児童生徒の体力・運動能力の向上を図るとともに、正しい食生活や規則正しい生活習慣を身につけ、生涯にわたって自らの健康を増進しようとする態度を養っていく。	

3 平成28年度の取り組みと自己評価										
取り組みと成果										
昨年の課題を踏まえ、小学校ではマラソンカードや縄跳びカードに目標を設定させることで、意欲的に体力づくりに取り組ませるようにした。 平成28年度の小学5年生と中学2年生の実技についての調査結果の全国との比較の結果、小・中とも「上体起こし」、「50M走」が男女とも全国平均に達していない。小学5年生男子、中学2年生女子が全国平均を下回っているが、小学5年生女子は、目標値を上回る結果となった。										
「全国体力・運動能力調査」の結果（全国との比較）										
1 小学校5年生の結果より										
種目等	握力(kg) (筋力)	上体起こし(回) (筋持久力)	長座体前屈(cm) (柔軟性)	反復横跳び(回) (敏捷性)	持久走(持久力)	20mシャトルラン(回) (全身持久力)	50m走(秒) (走力)	立ち幅跳び(cm) (跳躍力)	ソフトボール投げ(m) (投力)	総合評価
28年度男子	17.45	18.79	32.94	40.98		47.52	9.70	148.99	22.70	52.69
28年度女子	16.89	18.14	37.42	40.53		41.46	9.62	146.23	15.18	56.16
男子全国平均	16.47	19.67	32.88	41.97		51.88	9.38	151.42	22.41	53.93
女子全国平均	16.13	18.60	37.22	40.06		41.29	9.61	145.34	13.87	55.54

2 中学校2年生の結果より										
28年度男子	30.87	27.23	44.43	53.37	384.89	86.80	8.09	193.48	19.65	42.52
28年度女子	24.24	23.45	45.54	47.16	285.32	57.64	8.86	165.39	12.26	49.33
男子全国平均	28.90	27.36	42.97	51.90	392.59	85.90	8.03	194.66	20.54	42.00
女子全国平均	23.72	23.37	45.47	46.59	289.34	58.50	8.83	168.16	12.78	49.41

評価	
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 平成29年度に向けた課題・今後の方針	
小・中とも「走力」「筋持久力」が特に劣っている。本市の課題を意識した授業実践が必要である	各学校において体力の面の課題を明確にした上で、楽しさを味わえる体育の授業づくりを行い、自ら運動に親しむ児童生徒を育成する。

5 学識経験者の意見	
やや達成率が落ち、毎日あるいは週単位の体力づくりへの取組についても模索していただきたい。	

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会の創造			基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」 学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興																																																																					
	具体的施策	生涯にわたる学習機会の提供					担当課 社会教育課																																																																				
1 目的																																																																											
幼児期の子どもが、社会に適応するための基本的資質や能力を形成するうえで必要な教育が得られる場づくりを図る。また、子育てについての学習や、保護者同士の情報交換、親子の交流やふれあいを通じて子どものしつけや子育てについて考える機会を提供し、家庭の教育力の向上を図る。																																																																											
2 具体的事業																																																																											
施策を構成する事業						目標指標																																																																					
19「家庭教育学級」						参加人数																																																																					
事業概要及び目標						現状値（平成27年度） 2,376人 目標値（平成28年度） 2,500人 実績値（平成28年度） 2,285人 達成率 91.4%																																																																					
幼児、児童及び生徒の保護者を対象とした学習機会を提供するため、市内の保育所、幼稚園、小学校、中学校において行う家庭教育学級へ講師派遣の支援を行う。 これまで、未開催の学校等での実施に向け、継続的に周知を図る。																																																																											
3 平成28年度の取り組みと自己評価																																																																											
取り組みと成果																																																																											
年度当初に、全ての保育所、幼稚園、小学校、中学校に事業の周知を行い、保護者を対象に家庭教育学級を実施している。学校等に対し課題やテーマに適した講師派遣の支援を行った。 PTA事業や保護者会事業としての開催が可能なことを周知した結果、これまで中学校での開催実績はなかったが、瀬峰中学校において「親子教育講演会」を開催し、191人の参加があった。																																																																											
家庭教育学級実績（平成29年3月末現在）																																																																											
<table><tr><td></td><td colspan="3">平成26年度</td><td colspan="3">平成27年度</td><td colspan="3">平成28年度</td></tr><tr><td rowspan="4">開催回数</td><td>保育所</td><td>1回</td><td rowspan="4">18回</td><td>保育所</td><td>4回</td><td rowspan="4">17回</td><td>保育所</td><td>2回</td><td rowspan="4">18回</td></tr><tr><td>幼稚園</td><td>10回</td><td>幼稚園</td><td>7回</td><td>幼稚園</td><td>6回</td></tr><tr><td>小学校</td><td>7回</td><td>小学校</td><td>6回</td><td>小学校</td><td>9回</td></tr><tr><td>中学校</td><td>—</td><td>中学校</td><td>—</td><td>中学校</td><td>1回</td></tr><tr><td rowspan="4">参加者数</td><td>保育所</td><td>65人</td><td rowspan="4">1,828人</td><td>保育所</td><td>462人</td><td rowspan="4">2,376人</td><td>保育所</td><td>124人</td><td rowspan="4">2,285人</td></tr><tr><td>幼稚園</td><td>1,239人</td><td>幼稚園</td><td>1,107人</td><td>幼稚園</td><td>638人</td></tr><tr><td>小学校</td><td>524人</td><td>小学校</td><td>807人</td><td>小学校</td><td>1,332人</td></tr><tr><td>中学校</td><td>—</td><td>中学校</td><td>—</td><td>中学校</td><td>191人</td></tr></table>											平成26年度			平成27年度			平成28年度			開催回数	保育所	1回	18回	保育所	4回	17回	保育所	2回	18回	幼稚園	10回	幼稚園	7回	幼稚園	6回	小学校	7回	小学校	6回	小学校	9回	中学校	—	中学校	—	中学校	1回	参加者数	保育所	65人	1,828人	保育所	462人	2,376人	保育所	124人	2,285人	幼稚園	1,239人	幼稚園	1,107人	幼稚園	638人	小学校	524人	小学校	807人	小学校	1,332人	中学校	—	中学校	—	中学校	191人
	平成26年度			平成27年度			平成28年度																																																																				
開催回数	保育所	1回	18回	保育所	4回	17回	保育所	2回	18回																																																																		
	幼稚園	10回		幼稚園	7回		幼稚園	6回																																																																			
	小学校	7回		小学校	6回		小学校	9回																																																																			
	中学校	—		中学校	—		中学校	1回																																																																			
参加者数	保育所	65人	1,828人	保育所	462人	2,376人	保育所	124人	2,285人																																																																		
	幼稚園	1,239人		幼稚園	1,107人		幼稚園	638人																																																																			
	小学校	524人		小学校	807人		小学校	1,332人																																																																			
	中学校	—		中学校	—		中学校	191人																																																																			
評価																																																																											
B A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上） B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満） C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満） D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）																																																																											
4 平成29年度に向けた課題・今後の方針																																																																											
家庭の教育力の向上を図るため、より多くの学校等で事業が実施できるよう、開催方法の工夫と周知が必要である。					➡ 事業内容をPRするとともに、未開催学校等へは事業実施例を示しながら開催方法を提案していく。																																																																						
5 学識経験者の意見																																																																											
取組の在り方について、さらなる検討をお願いしたい。																																																																											

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会の創造	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興	
	具体的施策	生涯にわたる学習機会の提供			担当課 社会教育課
1 目的					
幼児期の子どもが、社会に適応するための基本的資質や能力を形成するうえで必要な教育が得られる場づくりを図る。また、保護者が家庭教育について「学び、考える」機会の拡大に努め、それを支援する人材の育成を図っていく。					
2 具体的事業					
施策を構成する事業			目標指標		
20「ブックスタート事業」			ブックスタート＋フォローアップ参加人数		
事業概要及び目標			現状値（平成27年度）813人 目標値（平成28年度）900人 実績値（平成28年度）907人 達成率100.7%		
3～4か月児健診の際に、読み聞かせボランティアと職員で絵本の読み聞かせを行い、絵本を手渡す。絵本を介して親子がふれあうきっかけを作り、読書の楽しさを伝える。 また、セカンドブック事業実施に向け、各種事業とのタイアップなど、調査検討を進める。					
3 平成28年度の取り組みと自己評価					
取り組みと成果					
健診に参加するすべての赤ちゃんと保護者を対象として、絵本を開く楽しさを伝えるため絵本を2冊ずつ配布した。 また、フォローアップ事業として、「赤ちゃん向けおはなし会」と「10～11か月児育児相談」での絵本の読み聞かせも行った。					
○ブックスタート事業（平成29年3月末現在）					
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
実施回数	24回	24回	24回	22回	22回
配付数	438人	424人	368人	330人	358人
○赤ちゃん向けおはなし会（築館子育て支援センターへの出前事業）					
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
開催回数	12回	6回	6回	5回	6回
参加人数	247人	130人	143人	145人	167人
○絵本読み聞かせ（10～11か月児育児相談時）					
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
開催回数				24回	24回
参加人数				338人	382人
○合計					
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
開催回数	36回	30回	30回	51回	52回
配付数	685人	554人	511人	813人	907人
評価					
A	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）				
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）				
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）				
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）				
4 平成29年度に向けた課題・今後の方針					
ブックスタート実施後の、更なるフォローアップ事業が必要である。			➡	セカンドブック事業（3歳児健診とタイアップした読書習慣を育む事業）を実施する。	
5 学識経験者の意見					
取組の成果は上昇している。					

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会の創造	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興							
	具体的施策	生涯にわたる学習機会の提供							担当課 社会教育課		
1 目的											
青少年期は、心身の発達に伴い、子どもから若者へと成長し、社会の担い手として生活の基盤を確立し、公共への参画を通して社会へ貢献する時期である。このことから、地域ぐるみで社会教育活動や学校支援活動を推進し、家庭や地域の教育力を高める。											
2 具体的事業											
施策を構成する事業							目標指標				
21「ジュニア・リーダー育成事業・派遣事業」							ジュニア・リーダー登録人数				
事業概要及び目標							現状値（平成27年度）48人				
地域少年集団の育成と活動の支援体制を図るため、ジュニア・リーダーを育成し、少年体験活動の支援を図る。また、地域で開催されるお祭り、子ども会活動、社会教育事業等への参画を積極的に促し、社会貢献の場を提供する。							目標値（平成28年度）53人				
							実績値（平成28年度）58人				
							達成率109.4%				
3 平成28年度の取り組みと自己評価											
取り組みと成果											
各種研修や子ども会等への派遣を行うため、ジュニア・リーダーの育成を行った。市子ども会育成連合会と共催し、平成27年10月から毎月ジュニア・リーダー連絡協議会を開催しており、事業の企画立案などを、ジュニア・リーダーが自ら行うよう指導し、人材育成と技術向上に努めた。											
対外的な事業として、小学生との異年齢交流を目的とした「ジュニア・リーダーフェスティバル」や「くりこまハロウィンパーティ」などを実施した。											
ジュニアリーダー地区別人数（単位：人）											
	築館	志波姫	若柳	金成	栗駒	鶯沢	瀬峰	高清水	一迫	花山	計
上級	0人	0人	0人	0人	1人	0人	3人	0人	2人	0人	6人
中級	3人	0人	0人	0人	4人	3人	6人	0人	3人	0人	19人
初級	1人	0人	0人	0人	3人	0人	3人	0人	1人	0人	8人
有級者計	4人	0人	0人	0人	8人	3人	12人	0人	6人	0人	33人
未取得者	12人	0人	0人	2人	11人	0人	0人	0人	0人	0人	25人
計	16人	0人	0人	2人	19人	3人	12人	0人	6人	0人	58人
ジュニア・リーダー関連事業（平成29年3月末現在）											
事業名							期 日		参加者数		担当部署
ジュニア・リーダー連絡協議会							毎月1回程度		JL延べ61人		社会教育課
せみね合宿通学							9月27日(火)～30日(金)		16人（JL2人）		瀬峰・高清水教育センター
ジュニア・リーダー初級研修会							10月8日(土)～9日(日)		18人		社会教育課
くりこまハロウィンパーティ							10月29日（土）		37人		栗駒・鶯沢教育センター
ジュニア・リーダーフェスティバル							10月30日（日）		35人(JL22人)		社会教育課
築館ジュニアリーダー人形劇祭り							12月23日（金）		62人		築館・志波姫教育センター
せみねっこ・たかしみずっこ ふれあいクリスマスパーティー							12月11日（日）		38人（JL14人）		瀬峰・高清水教育センター
合 計									264人		
評 価											
A	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）										
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）										
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）										
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）										
4 平成29年度に向けた課題・今後の方針											
地区ごとに活動への温度差があり、人数にも開きがあるものの、概ね活発な活動を展開している。育成者の関わりを検討し、今後継続して青少年の人材育成を図る工夫が必要。							市子ども会育成連合会と連携してジュニアリーダーを育成していくが、行政の積極的かつ継続的な関わりも途切れないように体制を考える。				
5 学識経験者の意見											
目標達成率を超え、企画内容に効果があったようにとれる。											

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会の創造	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興	
	具体的施策	生涯にわたる学習機会の提供		担当課 社会教育課	
1 目的					
青少年期は、心身の発達に伴い、子どもから若者へと成長し、社会の担い手として生活の基盤を確立し、公共への参画を通して社会へ貢献する時期である。このことから、地域ぐるみで社会教育活動や学校支援活動を推進し、家庭や地域の教育力を高める。					
2 具体的事業					
施策を構成する事業			目標指標		
22「少年体験教室」「青少年育成団体との連携・育成者の支援」			参加人数		
事業概要及び目標			現状値（平成27年度）746人		
青少年教育の推進を図るため、自然体験など体験的な活動の事業実施や、青少年育成団体と共催による事業を実施する。 また、各種事業に、ジュニアリーダー、シニアリーダーの活用を進め、異年齢集団による交流を図ることとし、将来の青少年教育の指導者育成の一翼を担う。			目標値（平成28年度）800人		
			実績値（平成28年度）789人		
			達成率 98.6%		
3 平成28年度の取り組みと自己評価					
取り組みと成果					
様々な遊びや体験活動、人との関わりを通し、豊かな心を育むと共に自主性や協調性を養い、成長過程での情操教育の一環として、教育センター等で青少年を対象とした事業を開催した。 また、事業運営にジュニア・リーダーやシニア・リーダーを関わらせ、異年齢集団による交流を図った。					
目標指標とした青少年対象の事業（平成29年3月末現在）					
事業名		期日・期間	対象	参加人数	連携団体
少年体験教室事業（まなびっこ）		7月～2月（5回）	築館・志波姫地区小学生	36人	※築館、志波姫教育センターと若柳・金成教育センターの連携事業
少年体験教室事業（わんぱく塾）		7月～2月（5回）	若柳・金成地区小学生	63人	
第37回少年の主張栗原大会		7月13日（水）	中学生	各校代表 8人（聴講：400人）	青少年のための栗原市民会議
あきる野市・栗原市友好親善交流事業		8/3（水）～8/5（金）	生徒会交流：市内中学校 部活交流：築館中（卓球部）	栗原市 40人 あきる野市 31人	
かなりクリスマス子ども祭り		12月	児童、保護者、一般市民	178人	金成地区子ども会育成会
風あげ大会		2月	高清水、瀬峰地区市民（親子）	34人	青少年のための栗原市民会議高清水地区会
図書館でのおはなし会		毎週土曜日	幼児、小学生	399人	読み聞かせボランティア「ひなたぼっこ」
		計		789人	達成率：98.6%
その他の青少年対象の事業					
事業名		期日・期間	対象	参加人数	連携団体
子ども陶芸教室		5月～9月（5回）	小学生以上	38人	
七夕おはなし会		7月9日（土）	幼児・小中学生	25人	
作って飛ばそう！ペットボトルロケット		7月27日（水）	一迫地区小学生	22人	青少年のための栗原市民会議一迫地区会
カブトムシ相撲大会・七夕飾り作成		8月13日（土）	小学生	18人	青少年のための栗原市民会議高清水地区会
せみね合宿通学		9月27日（火）～9月30日	瀬峰地区小学4年～6年生	16人	せみね合宿通学実行委員会
2016栗駒こどもまつり		11月19日（土）	市内小学生等	120人	青少年のための栗原市民会議栗駒地区会 栗駒地区子ども会育成会
2016いちばさまこどもまつり		12月18日（日）	一迫地区小学生	50人	一迫地区子ども会育成親の会連合会
		計		289人	
青少年対象事業合計				1,078人	事業全体での達成率：134.8%
評価					
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）				
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）				
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）				
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）				
4 平成29年度に向けた課題・今後の方針					
青少年の健全な成長を促すため、多様な体験の場を提供するとともに、将来の青少年教育を担う指導者を育成していく必要がある。			➡	各種団体と連携し、より多様な体験や遊びの場を提供できるよう努める。 加えて各種事業にジュニア・リーダーやシニアリーダーを参画させる機会を増やし、将来の青年教育の指導者として育成していく。	
5 学識経験者の意見					
本事業全体の理念・骨格などを様々なイベントで示す必要がある。様々なイベントの連続性（ストーリー）にも着目した案内もあろう。					

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会の創造	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興			
	具体的施策	生涯にわたる学習機会の提供			担当課 社会教育課		
1 目的							
小学校に就学している児童が、その保護者の就労等により家庭にいない児童を対象に、授業終了後、校舎等の施設を利用して、適切な遊び及び生活の場を与えて、放課後児童の健全な育成を図る。							
2 具体的事業							
施策を構成する事業			目標指標				
23「放課後児童クラブ」			承諾率				
事業概要及び目標 小学1年生から6年生までの児童を対象に、市内10地区12ヶ所に開設し、運営する。			現状値（平成27年度）		91.46%		
			目標値（平成28年度）		100.0%		
			実績値（平成28年度）				
			達成率		100.0%		
3 平成28年度の取り組みと自己評価							
取り組みと成果							
小学1年生から6年生までの児童を対象に、市内10地区12ヶ所に開設し、栗原市社会福祉協議会へ運営を委託し放課後等における安心安全な生活場、遊びの場を提供している。 なお、平成29年3月末時点において、承諾率は100.0パーセントとなった。 ○放課後児童クラブ入所者数							
クラブ名		設置場所	定員	申請者数 ①	申請 取下 げ数	実申請者 数 ③=①-②	承諾数 ④
築館放課後児童クラブ		旧築館幼稚園	160人	139人	9人	130人	130人
宮野放課後児童クラブ		宮野小学校内	50人	56人	0人	56人	56人
若柳放課後児童クラブ		若柳小学校内	120人	125人	3人	122人	122人
栗駒放課後児童クラブ		旧岩ヶ崎幼稚園	60人	58人	1人	57人	57人
栗駒南放課後児童クラブ		旧尾松幼稚園	60人	49人	1人	48人	48人
高清水放課後児童クラブ		高清水小学校内	75人	57人	1人	56人	56人
一迫放課後児童クラブ		一迫小学校内	130人	112人	2人	110人	110人
瀬峰放課後児童クラブ		瀬峰小学校内	35人	26人	2人	24人	24人
鶯沢放課後児童クラブ		鶯沢老人福祉センター内	40人	43人	0人	43人	43人
金成放課後児童クラブ		旧金成小学校内	85人	63人	3人	60人	60人
志波姫放課後児童クラブ		志波姫小学校内	110人	116人	6人	110人	110人
花山放課後児童クラブ		草木コミュニティセンター内	30人	15人	0人	15人	15人
計			955人	859人	28人	831人	831人
平成29年3月末現在							
				申請者数①	859人		
				申請取下げ数②	28人		
				実申請者数 ③=①-②	831人		
				承諾者数④	831人		
				承諾率 ④÷③	100.0%		
評価							
A	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）						
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）						
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）						
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）						
4 平成29年度に向けた課題・今後の方針							
平成29年度から実施する土曜日の開設について、ニーズや要望に対応するとともに、各施設の環境向上に向けての対応が必要。			➡	受託者や利用者の要望を把握するとともに、協議をより密にし対応する。			
5 学識経験者の意見							
安定感のある実施のように窺える。							

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会の創造	基本目標	「いつでも・どこで・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興	
	具体的施策	生涯にわたる学習機会の提供		担当課 社会教育課	
1 目的					
市民それぞれが、生涯にわたって学習を継続するにあたり、生きていくライフステージによって、求められる学習内容や手法は変わってくるため、それぞれに応じた学習機会の提供と充実を図る。					
2 具体的事業					
施策を構成する事業			目標指標		
24「シニアセミナー」、「レディースカレッジ」、「市民セミナー」			参加人数		
事業概要及び目標			現状値（平成27年度） 目標値（平成28年度） 実績値（平成28年度） 達成率		
地域住民の多様化する学習ニーズに対応し、ライフステージに合わせた生涯学習の場の提供を図る。また、高齢者の豊かな知識と経験などを地域社会の活動に生かし、生きがいのある生活の創造を促すため、積極的に高齢者の社会参加を進めながら、各種事業において、アンケート調査を実施し、市民ニーズの把握に努める。			621人 700人 539人 77.0%		
3 平成28年度の取り組みと自己評価					
取り組みと成果					
ライフステージ、市民ニーズに合わせた事業を各教育センターごとに実施した。年齢や地域、抱える問題や価値観などに関する事業を実施したことにより、市民が生涯にわたり学習を続けていく機会となった。					
目標指標とした主な生涯学習推進事業（平成29年3月末現在）					
事業の種類	事業名	期日・期間	対象	延べ参加人数	担当部署
シニアセミナー	高齢講座「シニアセミナー」	6月～12月（4回）	築館・志波姫地区市民（60歳以上）	101人	築館・志波姫教育センター
	せみねりフレッシュカレッジ	6月～3月（4回）	瀬峰地区市民（60歳以上）	73人	瀬峰・高清水教育センター
	花山寿康大学	7月～2月	花山地区市民（60歳以上）	47人	一迫・花山教育センター
	健康のつどい「健康寿命」伸ばそう	12月23日（金）	市民一般	19人	栗駒・鶯沢教育センター
レディースカレッジ	女性教室	5月～3月	市民一般	125人	若柳・金成教育センター
	栗駒山 春の星空さんぽ	4月29日（水）	市民一般（親子・成人）	23人	栗駒・鶯沢教育センター
市民セミナー	消しゴムはんこ	6月～11月	一般市民（小学生）	4人	栗駒・鶯沢教育センター
	ワクワク陶芸教室	6月～11月	市民一般（小学生～）	45人	若柳・金成教育センター
	園芸講座	6月～12月	一迫・花山地区市民	46人	一迫・花山教育センター
	手芸講座	6月～11月	一迫・花山地区市民	56人	一迫・花山教育センター
合 計				539人	達成率：77.0%
その他の生涯学習推進事業					
事業の種類	事業名	期日・期間	対象	延べ参加人数	担当部署
シニアセミナー	松葉大学	5月～3月（11回）	志波姫地区市民（60歳以上）	236人	築館・志波姫教育センター
レディースカレッジ	女性講座「レディースカレッジ」	6月～12月（4回）	築館・志波姫地区市民（成人女性）	91人	築館・志波姫教育センター
	陶芸教室	4月～10月	市民一般	289人	栗駒・鶯沢教育センター
市民セミナー	こども陶芸教室	5月～9月（5回）	市民一般（小学生）	110人	栗駒・鶯沢教育センター
	くりはら陶芸教室	5月21日（土）	市民一般	40人	若柳・金成教育センター
	健康マルシェ	11月19日（土）	市民一般	25人	栗駒・鶯沢教育センター
	市民セミナー	7月～12月（5回）	一迫・花山地区市民	46人	一迫・花山教育センター
合 計				837人	
生涯学習推進事業合計				1,376人	事業全体での達成率：196.6%
※目標値については、実施事業から、抜粋した主な事業の参加人数で設定したが、今後は、全ての生涯学習推進事業の参加者数を目標とすることから全事業を掲載したもの。					
評 価					
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）				
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）				
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）				
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）				
4 平成29年度に向けた課題・今後の方針					
事業は各地区教育センターとも、定着感があり、参加者も固定化しているため、より多くの市民が参加できる仕組みづくりが必要。			➡	各事業参加者等の声を聴くなど、市民のニーズを掘り起こし、事業のマンネリ化防止を図る。	
5 学識経験者の意見					
目標達成率が低いため、再度、ニーズの検討と修正が必要である。					

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会の創造	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興									
	具体的施策	生涯学習活動の支援・社会教育事業や施設の充実			担当課 社会教育課								
1 目的													
読書週間（10月27日～11月9日）に、リサイクル資料の提供、読み聞かせボランティアによるおはなし会等を開催し、市民の読書活動を推進する。また、書庫や移動図書館車の案内等により、図書館利用の拡大を図る。													
2 具体的事業													
施策を構成する事業			目標指標										
25「図書館まつり」			参加人数										
事業概要及び目標			現状値（平成27年度）541人 目標値（平成28年度）600人 実績値（平成28年度）986人 達成率164%										
すべての世代の人たちに読書の楽しさを伝えるため、各種ボランティア団体と連携し、本に関連する様々なイベントを実施する。 また、未利用者への周知の徹底に努め、事業内容を検討し、参加を促す。													
3 平成28年度の取り組みと自己評価													
取り組みと成果													
読書週間（10月27日～11月9日）にさきがけて「図書館まつり」を開催した。親しみやすい図書館をPRし、市民の読書活動の向上を促進するため、リサイクル資料の提供や読み聞かせボランティアによるおはなし会等を開催した。また、書庫や移動図書館車の案内等を実施し、図書館利用の拡大を図った。													
<table><tr><th>事業名</th><th>日時</th><th>対象者</th><th>入館者数</th></tr><tr><td>第13回図書館まつり</td><td>10月22日（土）午前9時～午後5時</td><td>市民一般</td><td>986人</td></tr></table>						事業名	日時	対象者	入館者数	第13回図書館まつり	10月22日（土）午前9時～午後5時	市民一般	986人
事業名	日時	対象者	入館者数										
第13回図書館まつり	10月22日（土）午前9時～午後5時	市民一般	986人										
【内容】 ○本のリサイクル ○「ぐりとぐら」に変身しよう ○おはなし隊 ①おはなしボランティアひなたぼっこ ②おはなしやまぼうし ○人形劇を楽しもう！ 人形劇サークルくるみ ○クリハライザーショー ○映画会 「まめうしくん」「ふるさと再生 日本の昔ばなし」													
評価													
A		A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上） B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満） C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満） D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）											
4 平成29年度に向けた課題・今後の方針													
多くの集客があり一定の成果を得ることができた。今後は、PRや事業内容等について、更に工夫をしていきたい。			➡ 更にPRや事業内容を工夫して、読書の楽しさを伝えるとともに図書館の認知度を高めていく。										
5 学識経験者の意見													
目標達成率を大幅に超えている。													

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会の創造		基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興	
	具体的施策	生涯学習活動の支援・社会教育事業や施設の充実				担当課 社会教育課
1 目的						
家庭・地域・学校の協働による「地域の子どもたちを地域で育てる」仕組みづくりを推進することで、地域の人材の活用を促進し、知識、技、文化などを伝え、子どもたちの「生きる力」や「志」を育む。また、地域全体で子どもを育てる環境づくりを推進することで、地域の教育力の向上や市民の生涯学習の成果の活用を図る。						
2 具体的事業						
施策を構成する事業				目標指標		
26「協働教育推進事業」				協働教育各種推進事業への参加人数		
事業概要及び目標				現状値（平成27年度） 目標値（平成28年度） 実績値（平成28年度） 達成率		
地域住民がボランティアとして子どもたちの学習および体験活動等を支援する学校支援ボランティア推進事業や地域活動支援事業などを実施し、家庭・地域・学校が連携・協力して「地域の子どもを地域で育てる」環境づくりを推進する。 また、協働教育の理解を深め、さらなる市民参加を促す。				1,998人 2,100人 2,684人 127.8%		
3 平成28年度の取り組みと自己評価						
取り組みと成果						
地域住民の協働教育の意義と重要性への理解を深め、家庭・地域・学校が協働する仕組みづくりを推進するため、協働教育事業を実施している。 2年ごとに指定校を変更して取り組むことにより、より多くの学校において協働教育事業に対する理解を深めていただくよう努めている。今年度は、指定校を含め、市内の小学校13校全てが、中学校は8校中3校が協働教育事業に取組、家庭・地域・学校の連携を強めた。						
協働教育推進事業 (平成29年3月末現在)						
事業名		期日	対象	事業内容	参加人数(人)	
第1回協働教育推進委員会		7/21	協働教育推進委員ほか	協働教育事業の推進に係る協議(実施予定事業に関する協議)	24人	
栗原地区協働教育研修会		9月～3月(4回)	協働教育推進委員ほか	協働教育事業の推進に係る協議・評価・検証、学校支援ボランティア活動に関する体験発表等	140人	
学校支援ボランティア推進事業 (推進指定校)	通年	一迫小学校	地域自然体験、バター作り体験、祖父母昔あそび、地域商店街探検、キャップハンディー体験、納豆づくり体験、手縫い教室等	64人		
		栗駒南小学校	サツマイモ栽培、大豆畝立、よさこい指導、稲作体験、ミシン縫指導、しめ縄づくり、和楽器指導、よさこい指導、読み聞かせ等	264人		
		宮野小学校	畑づくり、「よさこい栗原」教室、陸上指導(築高)、サマースクール(築高)、水泳指導(築高)、着衣泳指導、書初め指導、読み聞かせ等	132人		
		金成小学校	リンゴ栽培、ホテルの生息調査、稲作栽培、ハリストス正教会見学、ミシン操作支援、和太鼓指導、読書指導、書写指導等	228人		
		金成中学校	キャップハンディ体験、職場体験、福祉体験活動、書写指導、文化歴史研修講話等	230人		
学校支援ボランティア推進事業 (推進指定校以外)	通年	築館小学校	読み聞かせ、クラブ活動支援、交通安全教室補助、サツマイモ植え付け支援、園科講話読みがき支援等	94人		
		玉沢小学校	手植えによる田植えの指導と支援、野菜収穫活動の指導と支援、地域ふれあい活動、クロスカントリー大会支援、祖父母交流収穫祭等	73人		
		若柳小学校	読み聞かせ、図書室の本の補修・整理、昔語り・民話、書道クラブ指導・書きぞめ指導、地域芸能指導、職業選択や生き方についての講話等	60人		
		栗駒小学校	読み聞かせ、運動会リズムダンス指導、踊り指導、講話、老人クラブとの交流会、キャップハンディ体験活動等	74人		
		高清水小学校	サツマイモ苗植え補助、そばまき、講話、ミシン操作補助、豆腐作り体験、そば打ち体験、茶道講師、太鼓クラブ講師、読み聞かせ等	48人		
		瀬峰小学校	読み聞かせ、畑の草刈り・耕起、算数指導補助、町探検補助、草花・麦遊びの補助、料理指導等	34人		
		鶯沢小学校	文字基句の指導、昔の遊び指導、白鷺太鼓の指導、書き初めの指導等	13人		
		志波姫小学校	交通安全指導、読み聞かせ、環境保全、よさこい指導、書道、スポーツテスト補助等	54人		
		花山小学校	こんにゃく芋の栽培・収穫・こんにゃく作り、婦人会との交流、北ノ前お茶っこの会との交流、さくら岡まつり、親子料理教室等	70人		
		築館中学校	浴衣の着付け、調理実習の指導補助	15人		
地域活動支援事業	12月	築館・志波姫地区	築館ジュニア・リーダー人形劇祭	21人		
	12月	若柳・金成地区	かんなんクリスマス子ども祭り ほか	62人		
	7月～12月	栗駒・鶯沢地区	平成28年度モデル子ども会等活動助成事業 ほか	178人		
	12/13	瀬峰・高清水地区	リサイクルみこしパレード ほか	300人		
	1/5～2/4	一迫・花山地区	第18回小・中学生新春書初め会 ほか	420人		
			計	86人 2,684人		
評価						
A	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上) B 概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満) C やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね70%未満) D 課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満)					
4 平成29年度に向けた課題・今後の方針						
平成29年度からの「地域学校協働活動推進」にむけ、全ての学校で事業に取組、更に学校・地域・家庭の連携を強める仕組みづくりが必要。				児童の学習環境がより向上するよう、地域の人材を有効的に活用する仕組みづくりを推進していく。(地域コーディネータの積極的活用等を目指す。)		
5 学識経験者の意見						
目標達成率を大幅に超えている。地域教育の基盤に繋げていきたい。						

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会の創造	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興																												
	具体的施策	国際理解のための学習や事業の推進			担当課 社会教育課																											
1 目的																																
国際社会の中で、日本人としての自覚を持ち、広い視野を持って異文化を理解し、異なる習慣や文化を持った人々と共に生きていくための資質や能力を持った人材を育成する。																																
2 具体的事業																																
施策を構成する事業			目標指標																													
27「青空大使派遣事業」			青空大使派遣人数																													
事業概要及び目標			現状値（平成27年度）20人 目標値（平成28年度）20人 実績値（平成28年度）20人 達成率100%																													
市内在住の中学2年生を対象に、オーストラリアでの海外研修を実施し、現地での学校訪問、ファームステイを体験するとともに、熱帯雨林やグレートバリアリーフの大自然に触れる。 また、海外研修終了後各学校での体験発表の場を設定するよう働きかけを行いながら、広報誌等を活用し、本事業の成果を発表する機会を増やし、より多くの方々への周知に努める。																																
3 平成28年度の取り組みと自己評価																																
取り組みと成果																																
中学生20人が参加し、国内研修を7回、海外研修を6泊7日で実施した。 各中学校へのポスター貼付や、広報くりはらを活用した周知効果により、定員の1.5倍にあたる30名の申し込みがあった。 平成28年度に、本事業の成果を把握するため、過去に青空大使派遣事業に参加した20歳以上の方79人を対象に、進路調査を実施した（回収率：49.4％）。その結果、「青年海外協力隊」や「国境なき医師団」での活動、英語や、その他の言語、文化に関する進路へ進んだ生徒がおり、また「仲間との協力」や「挑戦する気持ち」「自分を信じて努力すること」など本事業での体験が進路や将来に影響があったとの回答が得られた。事業の内容で役に立ったものとしては、ファームステイ（68.6％）、現地学校交流（17.1％）が多くあげられた。																																
<table><tr><td></td><td>期 日</td><td>研 修 内 容</td></tr><tr><td>結団式第1回</td><td>5/6（金） ※保護者参加</td><td>教育長・団長あいさつ、団員紹介、激励・決意のこたば 事業概要説明、旅行説明</td></tr><tr><td>第2回</td><td>5/15（日）</td><td>班別研修、学校交流プレゼン準備、英会話レッスン</td></tr><tr><td>第3回</td><td>6/12（日）</td><td>英会話レッスン、学校交流プレゼン練習</td></tr><tr><td>第4回</td><td>7/3（日）</td><td>ホームステイ体験談講話、学校交流プレゼン・合唱練習等</td></tr><tr><td>第5回</td><td>7/15（金） ※保護者参加</td><td>旅行説明、プレゼンリハーサル</td></tr><tr><td>海外研修</td><td>7/24（日）～7/30（土）</td><td>現地校生徒との交流（授業体験）、ファームステイ、アボリジニ文化体験、熱帯雨林散策（世界遺産）等自然体験 他</td></tr><tr><td>第6回</td><td>8/20（土）</td><td>研修の振り返りとまとめ、壁新聞作成</td></tr><tr><td>第7回 解団式</td><td>9/3（土） ※保護者参加</td><td>研修報告準備 市長・団長あいさつ、研修報告、団員代表のこたば</td></tr></table>							期 日	研 修 内 容	結団式第1回	5/6（金） ※保護者参加	教育長・団長あいさつ、団員紹介、激励・決意のこたば 事業概要説明、旅行説明	第2回	5/15（日）	班別研修、学校交流プレゼン準備、英会話レッスン	第3回	6/12（日）	英会話レッスン、学校交流プレゼン練習	第4回	7/3（日）	ホームステイ体験談講話、学校交流プレゼン・合唱練習等	第5回	7/15（金） ※保護者参加	旅行説明、プレゼンリハーサル	海外研修	7/24（日）～7/30（土）	現地校生徒との交流（授業体験）、ファームステイ、アボリジニ文化体験、熱帯雨林散策（世界遺産）等自然体験 他	第6回	8/20（土）	研修の振り返りとまとめ、壁新聞作成	第7回 解団式	9/3（土） ※保護者参加	研修報告準備 市長・団長あいさつ、研修報告、団員代表のこたば
	期 日	研 修 内 容																														
結団式第1回	5/6（金） ※保護者参加	教育長・団長あいさつ、団員紹介、激励・決意のこたば 事業概要説明、旅行説明																														
第2回	5/15（日）	班別研修、学校交流プレゼン準備、英会話レッスン																														
第3回	6/12（日）	英会話レッスン、学校交流プレゼン練習																														
第4回	7/3（日）	ホームステイ体験談講話、学校交流プレゼン・合唱練習等																														
第5回	7/15（金） ※保護者参加	旅行説明、プレゼンリハーサル																														
海外研修	7/24（日）～7/30（土）	現地校生徒との交流（授業体験）、ファームステイ、アボリジニ文化体験、熱帯雨林散策（世界遺産）等自然体験 他																														
第6回	8/20（土）	研修の振り返りとまとめ、壁新聞作成																														
第7回 解団式	9/3（土） ※保護者参加	研修報告準備 市長・団長あいさつ、研修報告、団員代表のこたば																														
評 価																																
A	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100％以上） B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70％以上100％未満） C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70％未満） D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50％未満）																															
4 平成29年度に向けた課題・今後の方針																																
実施したアンケートを踏まえ、事業内容の充実に努める。			参加した生徒の意見等から本事業が将来の進路や職業、性格形成等につながったことが把握できたことから継続していく方針としたい。																													
5 学識経験者の意見																																
国際交流の貴重な機会であり、一層の発展をお願いしたい。また、英語教育の発展にも繋げていきたい。																																

施策体系	基本方針	地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術活動の推進	基本目標	地域に根ざした文化芸術の振興	
	具体的施策	文化芸術活動の支援・地域に根ざした文化芸術の推進			担当課 社会教育課

1 目的					
市民が行う文化芸術活動の支援に努め、地域に根ざした文化芸術の推進を図る。					

2 具体的事業					
施策を構成する事業				目標指標	
28「見てけらいん美術展ほか各種展覧会」「音楽アウトリーチ（※）ほか各種芸術鑑賞会」 （※）音楽アウトリーチ・・・プロのアーティストを学校等に派遣して、ワークショップ、ミニコンサートなどを行う音楽の普及活動。				参加人数 現状値（平成27年度）20,799人 目標値（平成28年度）14,000人 ※平成27年度は10周年記念事業のため、事業数も参加者数も増大した。 【参考（平成26年度）13,526人】 実績値（平成28年度）19,263人 達成率137.5%	
事業概要及び目標					
優れた芸術に触れる機会を提供し、市民の文化的資質の向上を図るため芸術鑑賞会、音楽会、文化講演会などを開催する。また、市民の創作意欲の喚起と豊かな情操を養うため、市内外の絵画や書道などの作品展を開催する。					

3 平成28年度の取り組みと自己評価					
取り組みと成果					
優れた文化芸術に触れる機会の充実を図り、地域文化の創造に努めるため、各種文化事業を開催した。今年度は、栗原ドリームアンバサダーのおかやまはじめ氏所属劇団の公演を、実行委員会とタイアップすることにより、市民との協働による事業として実施した。					

社会教育課実施事業（15事業） 参加人数 9,574人					
事業名	開催日	人数	事業名	開催日	人数
NHK「民謡魂ふるさとの唄」公開収録	5/15	669人	小学校5年生～中学校3年生芸術鑑賞会	11/10～11	908人
第79回河北美術展栗原展	5/17～22	1,646人	美術ワークショップ	2/22	41人
大垣市との俳句交流事業	6/8～10	30人	心にきざむ 文化講演会	12/11	656人
小学校1年生～4年生芸術鑑賞会	7/6～7	1,747人	けやきステージ2016	12/18	239人
仙台フィルマイタウンコンサートin栗原	8/28	467人	第5回栗原地区吹奏楽祭	2/5	600人
青少年劇場小公演	8/31～9/16	781人	音楽アウトリーチ事業	2/2～3	374人
宮城県巡回小劇場（演劇）	9/5	170人	第10回栗原市写真展	2/25～3/5	583人
ジャズコロバ栗原2016	10/2	663人	計		9,574人

栗原文化会館実施事業（8事業） 参加人数 7,155人					
事業名	開催日	人数	事業名	開催日	人数
第52回 宮城水彩展「栗原展」	7/8～17	526人	第29回 栗原市美術展	11/15～20	550人
第20回 栗原市工芸展	8/2～7	525人	おかやまはじめ凱旋 劇団ラッパ屋公演	1月29日	832人
第15回 みてけらいん美術展	9/9～18	488人	寄贈作品の常設展示	4月～3月	3,174人
第29回 栗原書道展	9/24～10/1	276人	計		7,155人
南こうせつコンサート	11/3	784人			

若柳総合文化センター実施事業（5事業） 参加人数 2,534人					
事業名	開催日	人数	事業名	開催日	人数
親子芸術鑑賞会	7/1	501人	わかやなぎ音楽祭	1/15	295人
ダンスフェスティバル2016	8/28	303人	春の祭典～舞踊と民謡流派のつどい～	3/5	443人
劇団四季ファミリーミュージカル	10/2	461人	ドリーム・パル早春セミナー	3/18	531人
			計		2,534人

社会教育課実施事業	15事業	9,574人
栗原文化会館実施事業	8事業	7,155人
若柳総合文化センター実施事業	6事業	2,534人
合計	29事業	19,263人

評価	
A	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上） B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満） C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満） D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 平成29年度に向けた課題・今後の方針	
平成28年度は、通常事業に戻り、概ね予定通りの事業を実施したが、マンネリ感解消と有料公演のPR方法については検討が必要。	➡ 過去3年間程度の入込状況を検証しながら、事業の内容を検討する。

5 学識経験者の意見	
目標達成率を大幅に超えている。事業内容のバランスなどの検討も必要と思われる。	

施策体系	基本方針	地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術活動の推進	基本目標	文化財の保存と活用の推進	
	具体的施策	文化財の保存・継承活動の推進		担当課	文化財保護課

1 目的

先人が残した貴重な文化遺産を正しく理解し、大切に保存・保護し活用を図りながら、市民の文化財愛護意識の高揚を図る。

2 具体的事業

施策を構成する事業	目標指標
29「埋蔵文化財発掘調査事業」 事業概要及び目標 埋蔵文化財発掘調査を行い、遺跡の解明、遺跡の保存又は記録保存を行う。また、発掘調査現地説明会を実施し、文化財の啓蒙を図る。	

3 平成28年度の取り組みと自己評価

取り組みと成果

埋蔵文化財包蔵地における開発行為等に対応し、現状保存や記録保存を行うとともに、これらの成果を現地での説明会やパネル展示により市民に公開し、埋蔵文化財に対する理解を得ることができた。

今後も積極的に現地説明会等を開催し、文化財愛護意識の啓蒙を図っていく。

○協議等件数

単位：件

項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	参考H27
埋蔵文化財協議	14	16	15	13	11	7	7	8	12	4	8	6	121	91
発掘届	4	10	14	6	4	5	3	4	4	7	3	3	67	43
発掘通知	3	10	5	7	6	9	1	3	4	4	1	2	55	45
工事立会・確認調査報告	7	0	2	0	0	1	1	1	0	0	2	2	16	2
史跡現状変更	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	3	4

○埋蔵文化財発掘調査等の主な実績

遺跡名	開発目的	調査期間	遺跡名	開発目的	調査期間
清水山Ⅰ遺跡	幼保施設建設	4月～2月	萩ノ原C遺跡	太陽光発電施設	9月
白坂城跡	太陽光発電施設	5月	狐塚遺跡	個人住宅	10月
花栗遺跡	駐車場造成	5月～6月	下宮野塚	造成	10月～11月
源光遺跡	建売住宅建設	6月	原田遺跡	店舗建設	2月
泉谷遺跡	個人住宅	7月	大穴山遺跡	林道整備	12月～3月
伊治城跡	個人住宅	8月	大寺・筒の池遺跡	工場増築	3月

○発掘調査現地説明会

遺跡名	地区名	開催日	参加者
清水山Ⅰ遺跡	瀬峰	H28.9.20（火）	瀬峰小学校5・6年生等 約100名

○平成28年度発掘調査成果展（平成27年度発掘調査事業）

会場	開催日	来場者数	備考
栗原市一迫埋蔵文化財センター	H28.7.21～8.25	141名	企画展
イオンスパーセンター栗原志波姫店	H28.8.27	約150名	栗原市民まつり

評価

B

A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）
D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 平成29年度に向けた課題・今後の方針

開発に伴う発掘調査に時間を要したため、国庫補助による伊治城跡発掘調査事業を実施することが出来なかった。

➡

調査成果の公開を通して、市民の文化財愛護意識の高揚を図る一方、開発事業者等と連絡を密にして、伊治城跡発掘調査事業及び開発に伴う発掘調査を計画的かつ効率的に実施する。

5 学識経験者の意見

地道でありながらも、継続的な取組をお願いしたい。

施策体系	基本方針	地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術活動の推進	基本目標	文化財の保存と活用の推進	
	具体的施策	文化財の保存・継承活動の推進			担当課 文化財保護課
1 目的					
先人が残した貴重な文化遺産を正しく理解し、大切に保存・保護し活用を図りながら、市民の文化財愛護意識の高揚を図る。					
2 具体的事業					
施策を構成する事業			目標指標		
30「史跡伊治城跡整備事業」					
事業概要及び目標					
貴重な文化遺産である史跡伊治城跡を後世に残すとともに、栗原市の歴史環境の重要なひとつとして、広く市民に親しまれるような整備を進める。					
3 平成28年度の取り組みと自己評価					
取り組みと成果					
史跡伊治城跡整備基本計画策定業務を発注し、整備基本計画の策定を進めているほか、東北学院大学アジア流域文化研究所との共催で、伊治城跡に関する公開シンポジウムを開催するなど、当初の計画どおり保存・活用に対する市民意識の高揚を図ることができた。 史跡伊治城跡調査整備指導委員会の意見を聞きながら、整備基本計画の策定を進めていく予定だったが、伊治城跡の発掘調査を実施することが出来なかったことから、発掘調査の成果を整備計画に反映させることが出来なかったことと、事業を進める上で文化庁から指導を受ける必要があることが判明したことから、事業を繰り越すこととなり、当初計画のとおり事業進捗を図ることができなかった。					
○史跡伊治城跡整備基本計画策定業務 ・契約年月日 平成28年 5月31日 ・履行期間 平成28年 6月 1日～平成29年10月31日 ・委託業者 (株)創宇舎 ○伊治城跡に関する公開シンポジウムの開催「栗原市伊治城跡から読み解く東北古代史」 ・日時 平成28年 9月19日（月）午前10時～午後4時30分 ・開催場所 栗原文化会館 ホール ・参加者数 約350人 ・主催 東北学院大学アジア流域文化研究所 ・共催 栗原市教育委員会					
評価					
B		A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上） B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満） C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満） D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）			
4 平成29年度に向けた課題・今後の方針					
史跡伊治城跡整備基本計画に反映させるための伊治城跡発掘調査が実施できなかった。			➡	計画的かつ効率的に発掘調査を実施して、調査成果を整備計画に的確に反映させる。	
5 学識経験者の意見					
地道でありながらも、継続的な取組をお願いしたい。					

施策体系	基本方針	地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術活動の推進	基本目標	文化財の保存と活用の推進			
	具体的施策	文化財の保存・継承活動の推進			担当課 文化財保護課		
1 目的							
先人が残した貴重な文化遺産を正しく理解し、大切に保存・保護し活用を図りながら、市民の文化財愛護意識の高揚を図る。							
2 具体的事業							
施策を構成する事業			目標指標				
31「歴史・文化の継承支援及び伝統芸能活動支援事業」							
事業概要及び目標							
伝統技術や民俗芸能を継承する団体や個人に対しての活動を支援並びに史跡・天然記念物等保存活動に対する支援策として、補助金を交付する。							
3 平成28年度の取り組みと自己評価							
取り組みと成果							
伝統技術や民俗芸能を継承する個人や団体及び史跡・天然記念物等の保護活動を行う個人や団体に対し補助金を交付し、担い手育成に必要な用具の購入費用や、教室・講習会・発表会を行うための会場使用料などの負担を軽減し、伝承や保護の活動を支援することができた。また、アンケート調査等により各団体の組織化や活動の現状を把握した。							
○補助金の交付状況							
・史跡・天然記念物等の保護活動に対する補助金 2個人 144,000円							
・無形文化財保存伝承に対する補助金 1個人 95,000円							
・無形民俗文化財保存団体に対する補助金 11団体 498,750円							
・指定文化財の災害復旧に対する補助金 1団体 1,000,000円							
○無形文化財・民俗文化財の指定件数 平成29年3月31日現在							
大分類		中分類	小分類	国指定	県指定	市指定	計
無形文化財	芸能						0
	工芸技術				1	1	2
	小計			0	1	1	2
民俗文化財	有形民俗文化財					4	4
	無形民俗文化財	風俗慣習			1	3	4
		民俗芸能	1	1	31	33	
		民俗技術				0	
	小計			1	2	38	41
評価							
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）						
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）						
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）						
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）						
4 平成29年度に向けた課題・今後の方針							
平成28年度に実施した各団体の活動状況や実情を調査したアンケート結果をもとに、適切な支援が重要となっている。			➡	アンケート結果をもとに各団体が抱えている問題について、個別に相談に乗り問題の解決を図る。			
5 学識経験者の意見							
地道でありながらも、継続的な取組をお願いしたい。							

施策体系	基本方針	楽しさと活力ある生涯スポーツの推進	基本目標	心身の健康保持増進とスポーツの推進	
	具体的施策	スポーツ活動の支援・社会体育事業や施設の充実			担当課 社会教育課
1 目的					
スポーツ推進計画に基づき、市民の健康増進と体力向上をめざし、「楽・楽・楽スポーツ」（注1）をスローガンに、市民と地域、スポーツ団体、行政などが互いに連携・協力をし、スポーツ活動の推進を図る。 （注1）楽・楽・楽スポーツ…「する」楽しさ・「みる」楽しさ・「ささえる」楽しさを表現している。					
2 具体的事業					
施策を構成する事業			目標指標		
32「栗原ハーフマラソン大会」			大会参加人数		
事業概要及び目標			現状値（平成27年度）1,015人 目標値（平成28年度）1,800人 実績値（平成28年度）1,314人 達成率73.0%		
子どもから高齢者まで、多くの市民が参加しやすいよう種目を設定し、日本陸上競技連盟の公認を取得した、栗原市ハーフマラソンコースを会場に開催する。参加ランナーには「する」楽しさ・応援・協力をいただく方々には「みる」楽しさ・「ささえる」楽しさを体感しながら健康増進・体力向上を図れるような大会運営とする。					
3 平成28年度の取り組みと自己評価					
取り組みと成果					
出走者数1,314人（内親子ペア276人）であり、その内市民は409人（内親子ペア178人）の出走があった。就学前の子どもから高齢者まで、多くの参加者が秋晴れのもと健脚を競い、爽やかな汗を流し健康増進及び体力の向上が図られた。 また、大会には多くの市民がボランティアで参加し、さらに、沿道からも大きな声援があり、参加者との交流も図られた大会となった。 しかしながら、申込者数と出走者は、前大会から大幅な増となったものの目標値には達しなかった。					
第2回栗原ハーフマラソン大会 11月13日（日）					
部門名		申込人数	うち市民	出走人数	うち市民
1	ハーフ	679人	56人	573人	44人
2	10km	237人	52人	202人	46人
3	5km	158人	64人	137人	53人
4	2km	149人	101人	126人	88人
5	2km（親子ペア）	300人 （150組）	182人 （91組）	276人 （138組）	178人 （89組）
合計人数		1,523人	455人	1,314人	409人
評価					
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上） B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満） C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満） D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）				
4 平成29年度に向けた課題・今後の方針					
大会参加者の増加が見込まれることから、運営面や設備を充実させる必要がある。			➡	大会参加者や関係団体の意見を基に、運営面、設備を充実させ快適な競技環境をつくり、参加者の満足度の向上を図る。	
5 学識経験者の意見					
目標達成率が低い。高齢社会に向けて、健康増進のよい機会となるため、一層の実施の工夫をお願いしたい。					

施策体系	基本方針	楽しさと活力ある生涯スポーツの推進	基本目標	心身の健康保持増進とスポーツの推進	
	具体的施策	スポーツ活動の支援・社会体育事業や施設の充実			担当課 社会教育課
1 目的					
スポーツ推進計画に基づき、市民の健康増進と体力向上をめざし、「楽・楽・楽スポーツ」(注1)をスローガンに、市民と地域、スポーツ団体、行政などが互いに連携・協力をし、スポーツ活動の推進を図る。 (注1) 楽・楽・楽スポーツ…「する」楽しさ・「みる」楽しさ・「ささえる」楽しさを表現している。					
2 具体的事業					
施策を構成する事業			目標指標		
33「栗原市小学校陸上競技大会ほか各種大会」(高校陸上大会、東北中学校卓球大会、体力・運動能力調査)			各種大会参加人数		
事業概要及び目標			現状値(平成27年度) 2,022人 目標値(平成28年度) 2,100人 実績値(平成28年度) 2,456人 達成率 116.9%		
市民の健康増進及び体力・競技力向上を図るため、各種団体及び関係機関と連携しスポーツ大会等を開催する。 また、市民と地域、各種団体、行政が互いに連携・協力することで、スポーツを支える楽しさの推進を進める。					
3 平成28年度の取り組み状況と自己評価					
取り組みと成果					
○スポーツ大会等の実施状況 ・参加者の健康増進及び体力・競技力の向上を図るため、各種大会を開催した。 ・小学校陸上競技大会は、2つの大会を統合して実施したことから、応援も含め多くの小学生が参加し、児童の交流も図れ充実した大会となった。					
【小学校陸上全国大会出場種目】 女子6年100m、男子80mハードル、女子80mハードル、男子4×100mリレー					
【高校陸上県高校記録種目】 女子ハンマー投 記録：44m53					
事業名		期 日	対象者	参加人数	
				H28	H27
東北中学校卓球大会		5月21日～22日	東北地方の中学生	683人	750人
小学校陸上競技大会		6月5日	市内小学校4年生以上	870人	375人
くりこま高原高等学校陸上競技選手権大会		7月23日～24日	県内・岩手県南高校生	885人	855人
体力・運動能力調査		6月～10月	市内在住20歳～79歳	18人	42人
合 計				2,456人	2,022人
※小学校陸上競技大会は、平成28年度から市陸上競技協会・市教育委員会事業の大会と、学校行事の大会とを統合し実施。					
評 価					
A	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上) B 概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満) C やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね70%未満) D 課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満)				
4 平成29年度に向けた課題・今後の方針					
これらの事業については、事業統合もあり参加者が増え、充実した。			➡	今後も、関係者や各競技団体と協力しながら、現在の体制を維持、継続していく。	
5 学識経験者の意見					
参加者数が増え、充実した内容となってきた。					

施策体系	基本方針	楽しさと活力ある生涯スポーツの推進	基本目標	心身の健康保持増進とスポーツの推進
	具体的施策	スポーツ活動の支援・社会体育事業や施設の充実		担当課 社会教育課

1 目的

スポーツ推進計画に基づき、市民の健康増進と体力向上をめざし、「楽・楽・楽スポーツ」（注1）をスローガンに、市民と地域、スポーツ団体、行政などが互いに連携・協力をし、スポーツ活動の推進を図る。
（注1）楽・楽・楽スポーツ…「する」楽しさ・「みる」楽しさ・「ささえる」楽しさを表現している。

2 具体的事業

施策を構成する事業	目標指標
34「宮城ヘルシー2016ふるさとスポーツ祭栗原地区大会」	大会参加人数
事業概要及び目標	現状値（平成27年度）5,323人 目標値（平成28年度）5,400人 実績値（平成28年度）4,079人 達成率81.6%
子どもから高齢者まで多くの市民が気軽に、楽しく参加できるよう種目を創意工夫し、栗原地域の特徴を生かした一大スポーツ・レクリエーションの祭典として開催する。	

3 平成28年度の取り組みと自己評価

取り組みと成果

スポーツを通して地域住民の親睦を深めるとともに生涯スポーツの振興を図ることができた。しかし、地区予選会への参加者が少なかったことから目標値に達することができなかった。

【開催日】8月21日（日）
【会場】栗駒総合体育館、栗駒野球場、サン・スポーツランド栗駒
【種目・参加人数】本大会・予選会の参加者総数 4,079人

大会参加人数			地区予選会参加人数	
種目	チーム数	参加人数	種目	参加人数
ソフトボール	9	331人	ソフトボール	1,213人
家庭バレーボール	9	298人	家庭バレーボール	794人
家庭バレーボール（シニア）	7	164人	家庭バレーボール（シニア）	25人
ベタंक（シニア）	9	96人	ベタंक（シニア）	94人
ベタंक（フリー）	10	101人	ベタंक（フリー）	83人
グラウンド・ゴルフ	9	85人	グラウンド・ゴルフ	544人
健康づくりコーナー		166人	合計	2,753人
ニュースポーツ体験		85人		
合計	53	1,326人		

大会参加人数	1,326人
地区予選会参加人数	2,753人
合計	4,079人

B

A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね70%未満）
D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 平成29年度に向けた課題・今後の方針

子どもから高齢者まで多くの市民が参加できる大会であるが、参加人数の増減が大きく安定しない。

関係者や各競技団体と協力しながら、積極的に地区予選会への参加の呼びかけを行い、大会参加者の増加と安定を図る。

5 学識経験者の意見

目標達成率がやや低い。中高年の体力づくりに向け、一層の実施の工夫をお願いしたい。

3 学識経験者からの意見（総評）

吉 田 剛 氏
小 塩 さとみ 氏

「創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援」（事業No. 1 ～ 5）

すべての児童生徒がよりよい環境で学べるようにするための施策が多数あり、それぞれ成果をあげている。特に、少人数指導教諭や支援員の採用、幼稚園預かり保育事業については、今後ますます必要とされる領域であると思われる。

「学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成」（事業No. 6 ～ 11）

学力育成・向上のために多くの事業を実施しており、この課題について熱心に取り組んでいることがわかる。どの事業も優れた取組であり、個々によりよい事業展開を目指して努力しているが、多くの事業を実施することによる学校や教員への過剰負担が生まれていないか、児童生徒の自由な時間が確保できているか等についての配慮も必要であろう。

「自らの命を守るための防災教育と安全・安心な学校教育の推進」（事業No. 12、13）

主任研修や避難訓練により防災教育の基盤は整備されつつあると言える。これらの取組を、長期的にかつ継続的に実施することで、多くの人が防災の意識をもつようになる」と期待される。

「いじめを許さない学校づくりの推進」（事業No. 14、15）

情報共有を継続し、早期の対応で問題解決を図れるオープンな環境を目指して、今後も取組を行ってもらいたい。

また、ソーシャルワーカーの充実とともに、カウンセラーや養護教諭などとの連携の在り方の一層の充実をお願いしたい。

「一人一人を大切にし、豊かな心を育むための道德教育及び生徒指導、特別支援教育の推進」（事業No. 16、17）

9年間を一貫するカリキュラム設定や指導の在り方について一層検討していただきたい。

「健やかな身体を培う体育・健康教育の充実」（事業No. 18）

健康増進の意識や、そのための体力づくりの取組を、日・週・月・年などの単位から構造的に取り組んでいただきたい。

「生涯にわたる学習機会の提供」(事業No.19～24)

概ね良好の傾向ではあるが、ニーズ調査が必要な内容もあり、改善するところがある。

「生涯学習活動の支援・社会教育事業や施設の充実」(事業No.25、26)

とても良好である。

「国際理解のための学習や事業の推進」(事業No.27)

国際交流の貴重な機会であり、一層の発展をお願いしたい。また、英語教育の発展にも繋げていきたい。

「文化芸術活動の支援・地域に根ざした文化芸術の推進」(事業No.28)

とても良好である。

「文化財の保存・継承活動の推進」(事業No.29～31)

地道な作業となるが、安定した取組が望まれる。

「スポーツ活動の支援・社会体育事業や施設の充実」(事業No.32～34)

地域の健康増進のよい機会となるため、一層充実が求められる。

4 栗原市教育委員会としての今後の方向性

地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価（以下「点検・評価」と記載）を実施した。学識経験者として宮城教育大学のお二人の先生からいただいたご意見を踏まえて、具体的施策ごとに今後の取組を次のようにまとめた。

「創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援」（事業No. 1 ～ 5）

すべての児童生徒がよりよい環境で学べるようにするための施策が多数あり、それぞれ成果をあげていると評価をいただいた。

引き続き、きめ細かな教育活動を推進するための少人数指導教諭・補助員の配置による学校・学級への支援、小・中学校の教育環境整備を行うための再編、市立幼稚園の3年保育及び幼稚園預かり保育の充実、幼児教育の多様なニーズへの対応等、創意と活力に満ちた特色ある学校の創造を目指し、市独自の学校支援を実施してまいりたい。

「学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成」（事業No. 6 ～ 11）

学力向上の課題について熱心に取り組んでいると評価をいただいた反面、多くの事業を実施することによる学校や教員への過剰負担が生まれていないか、児童生徒の自由な時間が確保できているか等についてご意見をいただいた。

市独自の学力向上施策として、児童生徒の学習習慣の形成のために、学府くりはら塾や各種学習会の開催、英語教育の充実や、市内全部の小・中学校にタブレットPCを導入し、教員向けのICT活用研修を開催するなど、教育環境の整備を進めている。

今後、市全体の学力の底上げを図るために平成29年度から学力向上対策プロジェクト事業を立ち上げ、秋田県大仙市への小・中学校教員の研修派遣、学力向上研究指定校の指定による、児童生徒の学力向上に向けた取組を積極的に推進してまいりたい。

さらに、各事業に対する教員のニーズや児童生徒の声を把握することに努めるとともに、新しい学習指導要領の実施に伴う、道徳や小学校外国語（5・6年）の教科化に向けた研修事業等を実施し、教職員が安心して移行・導入できるように研修内容の充実と、教員が集中して教育に臨む環境づくりへの支援を行ってまいりたい。

「自らの命を守るための防災教育と安全・安心な学校教育の推進」（事業No. 12、13）

主任研修や避難訓練による防災教育の取組を、長期的にかつ継続的に実施することで、多くの方が防災の意識を持つよう期待するというご意見をいただいた。

これまでの、宮城県教育委員会の副読本を活用した防災教育に加え、栗駒山麓ジオパーク副読本「くりはら大地の物語」が作成されたことにより、本市の自然や歴史、岩手・宮城内陸地震における教訓を生かす防災教育へ発展させ、地域や関係機関と連携した避難訓練の実施による危機管理体制の構築を図ってまいりたい。

「いじめを許さない学校づくりの推進」(事業No. 14、15)

情報共有を継続し、早期の対応で問題解決を図れるオープンな環境を目指して、今後も取組を行ってもらいたい。また、ソーシャルワーカーの充実とともに、カウンセラーや養護教諭などとの連携を一層図るようご意見をいただいた。

全ての児童生徒が安心して学校生活を送り、様々な活動に意欲的に取り組むことができるよう、いじめを許さない学校づくりを推進するため、「命を大切にする教育」の取組の充実や、スクールソーシャルワーカー等の活用により、学校・家庭・児童生徒・関係機関が連携し、早期の対応で問題解決を図れる体制づくりを整備し、問題の未然防止と早期発見・早期対応に一層努めてまいりたい。

「一人一人を大切にし、豊かな心を育むための道德教育及び生徒指導、特別支援教育の推進」(事業No. 16、17)

9年間を一貫するカリキュラム設定や指導の在り方について一層検討していただきたいとのご意見をいただいた。

市内全部の小・中学校で取り組んでいる志教育を、今後は、9年間を見通した志教育へと充実を図り、一人一人が夢と志を持ち、その実現に向けて自ら考え行動し、社会を生き抜く人間を育む、柔軟できめ細かな志教育を推進してまいりたい。

また、学校不適応傾向の児童生徒に対しては、引き続き、教育相談員の配置や適応指導教室を設置し、学校復帰に繋がる、効果的な支援体制の構築を進めてまいりたい。

「健やかな身体を培う体育・健康教育の充実」(事業No. 18)

健康増進の意識や体力づくりの取組を、日・週・月・年などの単位から構造的に取り組んでいただきたいとのご意見をいただいた。

全国体力・運動能力調査の全国平均値を上回ることを目標指標に、各学校において、体力の面の課題を明確にした上で対策を講じていくことによって、楽しさを味わえる体育の授業づくり等を行い、自ら運動に親しむ児童生徒を育成し、心身の健康の保持増進と体力向上に繋がる対策を講じてまいりたい。

「生涯にわたる学習機会の提供」(事業No. 19～24)

概ね良好の傾向ではあるが、ニーズ調査が必要な内容もあり、改善するところがあるというご意見をいただいた。

幼児から高齢者まで、市民ニーズが多様化するため、常に柔軟な対応をすることができるよう、ニーズの把握に努めるとともに、PRの工夫や人的資源の活用、各年代に応じた事業の実施に努めてまいりたい。

「生涯学習活動の支援・社会教育事業や施設の充実」(事業No. 25、26)

とても良好であると評価をいただいた。

平成28年度に導入した図書館ネットワークシステムを活用し、充実した各種図書サービスを実施するとともに、協働教育推進事業については、地域の人材を有効的に活用する仕組みづくりを推進してまいりたい。

「国際理解のための学習や事業の推進」(事業No. 27)

国際交流の貴重な機会であり、一層の発展をお願いしたい。また、英語教育の発展にも繋げられたいとのご意見をいただいた。

平成28年度に実施したアンケートで、海外研修の体験が進路や将来に影響があったと回答を得たことから、引き続き、海外研修の一層の充実に努め、文化の違いや異なる習慣を持った人々との交流により、国際社会の中で共に生きて行くための資質や能力を持った人材の育成に努めてまいりたい。

「文化芸術活動の支援・地域に根差した文化芸術の推進」(事業No. 28)

とても良好であるとの評価をいただいた。

今後も、事業内容を精査しながら、市民が行う文化芸術活動の支援に努めるとともに、優れた文化芸術に触れる機会を提供し、市民の文化的資質の向上を図るため文化講演会など各種事業を積極的に開催し、目標指標の達成に向け、充実した事業展開を図ってまいりたい。

「文化財の保存・継承活動の推進」(事業No. 29～31)

地道な作業となるが、安定した取組が望まれるとのご意見をいただいた。

引き続き、先人たちが遺した貴重な文化遺産である伊治城跡等について、遺跡の解明、保存又は記録保存を行うとともに、発掘調査現地説明会を開催し、埋蔵文化財に対する啓蒙を図ってまいりたい。さらに、伝統技術や民俗芸能を継承する団体や個人に対しての支援及び史跡・天然記念物等保存活動に対する支援を行ってまいりたい。

「スポーツ活動の支援・社会体育事業や施設の充実」(事業No. 32～34)

地域の健康増進のよい機会となるため、一層充実が求められるとのご意見をいただいた。

子どもから高齢者まで多くの市民が気軽に、楽しく参加できるよう工夫し、市民が「楽・楽・楽スポーツ(「する」楽しさ・「みる」楽しさ・「ささえる」楽しさ)」を体験できるよう、スポーツ団体等と連携・協力し、市民の健康増進と体力向上に努めてまいりたい。

今回の「点検・評価」より、年度当初に目標指標の設定と数値化を行い、分かりやすい評価に努めた。本結果を市議会はじめ、市民の皆さまに報告・公表することにより、事業の目的・効果・課題・改善策を常に意識しながら、更なる教育行政の推進と事業の充実に努めてまいりたい。